



瀬戸内における

水環境を基調とする海文化

瀬戸内の伝統行事

平成 28 年 3 月

公益社団法人瀬戸内海環境保全協会

瀬戸内における水環境を基調とした海文化
(瀬戸内における伝統行事編)

目 次

	頁
1. 瀬戸内海における伝統行事	1
2. 瀬戸内海における湾・灘ごとの主な伝統行事	
1) 京都	4
2) 大阪湾	4
3) 播磨灘	7
4) 紀伊水道	15
5) 備讃瀬戸	19
6) 備後灘	24
7) 燧灘	25
8) 安芸灘	30
9) 広島湾	31
1 0) 周防灘	34
1 1) 響灘	38
1 2) 伊予灘	40
1 3) 豊後水道	42

1. 瀬戸内海における伝統行事

瀬戸内海は、昔から日本の政治、経済の中心であった奈良、京都に近いことなどから、様々な分野で先進的な地域として発展してきた。特に平安時代以降、京都が都と定められ、京都に住む貴族、役人、市民の生活を維持するために、京都より西に位置する瀬戸内海沿岸の各荘園において、温暖な気候を利用した農作物、塩などの特産物、魚介類等が生産され、瀬戸内海の海路、陸路を経由して都へ運搬されていた。

また、江戸時代には北前船を使用した西廻り航路の開発などにより、瀬戸内海は道としての機能が一層高まり、人と物資の輸送量が増加するとともに、海上交通の安全や大漁を祈願するために厳島神社や金刀比羅宮などの参拝や名所旧跡などを訪れる人々が増加し、瀬戸内海が大いに賑わうようになった。

そして現在でも瀬戸内海は、日本国内外を結ぶ物資や人の流れの重要なルートとなっており、道として大きな機能を担っている。

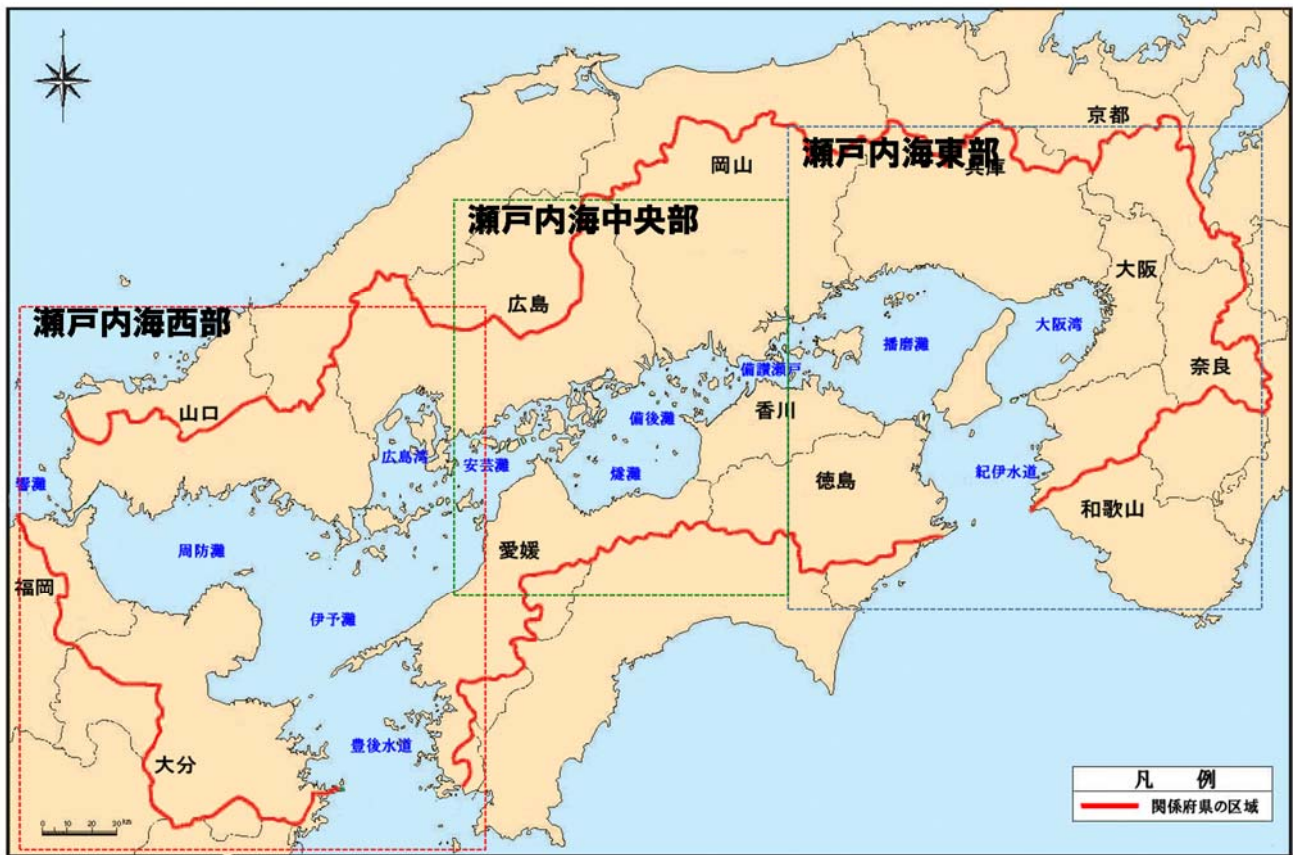
一方、瀬戸内海は昭和9年に雲仙、霧島とともに、わが国最初の国立公園として指定されており、家島諸島、備讃諸島、芸予諸島、防予諸島などの多島海美、鳴門海峡、来島海峡などの渦潮、慶野、津田、虹ヶ浜などの白砂青松の自然景観や宝生院のシンパク（香川県）等の国の特別天然記念物が数多く存在している。また、スナメリ、アビ、カブトガニ、ナメクジウオ、アツケシソウ、ノジギク、ハママツナなど、他の海域に見られない珍しい動、植物が生息している。

また、瀬戸内海の沿岸においては人の営みにより形成された人文景観も多く残されている。人文景観としては、宮島の厳島神社や、愛媛県宇和島市遊子町、広島県上蒲刈島、因島などの段々畑などがあげられる。瀬戸内海は、自然景観と人文的景観が組み合わされていることが、大きな特徴となっている。

このように、瀬戸内海では古くから漁業、農業、海運等の生活の場として活用されてきたことから、人の営みを受け継いできた数多くの伝統行事が伝わっており、例えば、火祭りや弓祈禱、管絃祭、舟競漕等、海に関係する珍しい行事や習慣が伝承されている。

以上のことから平成27年度の海文化事業は、瀬戸内海に伝わる様々な伝統行事の情報を湾・灘別に収集・整理し、もって瀬戸内海の海文化の啓発資料とすることとした。

瀬戸内海における地域ごとの主な伝統行事



2. 瀬戸内海における湾・灘ごとの主な伝統行事

注記：使用している画像は、自治体より提供して頂いたもの、自治体の観光協会等の公的機関のホームページおよび協会保有のものから引用した。

京 都

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
京都府	祇園祭（京都市）  公益財団法人祇園祭山鉾連合会 京都市中京区室町通蛸薬師下ル 山伏山町 554 TEL：075-223-6040 URL： http://www.gionmatsuri.or.jp/	京都八坂神社の祇園祭は、千百年余の伝統を有し、毎年7月1日の「吉符（きっぷ）入り」から31日の疫神社「夏越祓（なごしのはらえ）」まで1カ月に渡る神事で、古くは祇園御霊会（ぎおんごりょうえ）と呼ばれ、平安時代の貞観11年（869年）に都を中心に全国的に流行した疫病退散の神事を行ったことが始まりとされる。 この祇園祭の季節に、鰻（ハモ）料理は欠かすことができないものとなっている。なぜ、鰻を食べるのかという理由は、特に暑い祇園祭の時期に長いものを食べると精力が付くとか、生命力の非常に強い魚であるために輸送技術が発達していなかった時代でも、大阪湾や明石海峡で採れた鰻を夏に京都まで生きたまま輸送できたからといわれている。祇園祭りは別名「鰻祭」とも呼ばれている。

大 阪 湾

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
大阪府	住吉祭（夏祭） 特に大阪湾海上の安全を祈る「神輿洗神事」（大阪市）  住吉大社 〒558-0045 大阪府大阪市住吉区住吉 2丁目 9-89 TEL：06-6672-0753 URL： http://www.sumiyoshitaisha.net/calender/natu.html	大阪最後の夏祭りを締めくくる住吉祭は、大阪中をお祓いする「お清め」の意義があり、古くより「おはらい」ともいわれた。7月の「海の日」に「神輿洗神事」、7月30日に「宵宮祭」、翌日「例大祭」、そして8月1日にはいよいよ、住吉大神の御神霊（おみたま）をお遷した神輿が行列を仕立て、堺の宿院頓宮（しゅくいんとんぐう）までお渡りする「神輿渡御（みこしとぎょ）」が行われる。 神輿洗神事とは、住吉祭の8月1日に堺市宿院への神輿渡御に先立って、その神輿をお清めする神事で、神輿を住吉大社から向かいの住吉公園まで巡行し、海水によって神輿が祓い清められる。この海水は、直前に「汐汲舟」（しおくみぶね）と呼ばれる舟を出し、大阪湾沖合いの神聖な海水を汲み上げたものである。神輿は海水で清める神事を終えたのち、住吉大社までお還りになる。 住吉大神は、お祓い、航海安全、和歌の道、産業育成などを守護している。

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
大阪府	堺大魚夜市（堺市）  堺大魚夜市実行委員会 【堺市自治連合協議会、堺商工会議所、（一社）堺高石青年会議所、（公社）堺観光コンベンション協会】 問い合わせ先：堺大魚夜市実行委員会事務局 URL：http://yoich.com/ 岸和田だんじり祭（岸和田市） 岸和田市観光課 〒596-8510 大阪府岸和田市岸城町 7 番 1 号 岸和田市役所別館 4 階 TEL：072-423-9486 URL： https://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/danjiri/ 	堺大魚夜市（さかいおおうおよいち）とは、大阪府堺市堺区にある大浜公園で毎年 7 月 31 日に行われる魚市、祭の事である。鎌倉時代に始まったと言われ、およそ 700 年の歴史を誇る堺の夏の風物詩的行事となっている。 8 月 1 日に、住吉大社の夏越祓神事（なごしのはらえしんじ）に際して、神輿が堺の宿院頓宮（しゅくいんとんぐう）（住吉大社のお旅所）に渡御（とぎよ）するのに合わせて、地元の漁師たちが魚を持ち寄って神前に奉納。その際、大浜海岸に魚市が立ったことに由来する。古くは 7 月 31 日深夜から 8 月 1 日にかけて行われていたという。 戦争により一時中断したが、昭和 25 年（1950 年）に再開した。昭和 33 年（1958 年）に大浜海岸が埋め立てられたため、大浜公園に舞台を移し昭和 49 年（1974 年）まで続いた。その後、昭和 57 年（1982 年）に再び復活し、以降の開催地は主として大浜公園だが、一時ザビエル公園に変更したこともあり、平成 15、16 年（2003、2004 年）は浜寺公園で開催された。平成 17 年（2005 年）からは再び大浜公園で開催され、現在に至っている。 「岸和田だんじり祭」は、元禄 16 年（1703 年）、岸和田藩主岡部長泰（おかべながやす）公が、京都伏見稲荷を城内三の丸に勧請し、米や麦、豆、あわやひえなどの 5 つの穀物がたくさん取れるように（五穀豊穡）祈願し、行った稲荷祭がその始まりと伝えられている。約 300 年の歴史と伝統を誇る祭りである。当初、祭礼は「にわか」や狂言などの芸事を演じ、その後に三の丸神社、岸城神社へ参拝したようである。 岸和田だんじり祭は、9 月と 10 月に地区ごとに分かれて行われる。 だんじりを持つ町では、子どもからお年寄りまで年齢層ごとに役割が決められ、それぞれその役割を分担し、だんじり祭が運営されている。このように幅広い世代で統制のとれた組織ができあがっているのは、岸和田のだんじり祭の大きな特長である。一方、各地区のだんじり祭全体の総括的な運営は、毎年各町から選出される「年番」により行われ、年番を代表する年番長は、最高責任者として祭りを統括することになっている。 秋に旬を迎えるワタリガニを祭りの時にふるまう習慣がある。
兵庫県	住吉神社 浜戎まつり（西宮市） 西宮神社末社住吉神社 兵庫県西宮市西波止町 4-4 TEL: 0798-33-0321	元は漁師たちの祭りで、西宮市朝風町辺りに祀られていた浜戎神社で行われていたが、昭和 39 年（1964 年）に住吉神社境内に移転し、お祀りされている。7 月 31 日に夏祭が行われている。

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
兵庫県	住吉神社 夏祭（西宮市） 西宮神社末社住吉神社 兵庫県西宮市西波止町 4-4 TEL: 0798-33-0321	昭和 48 年（1973 年）より夏祭の時に船型のだんじり（住吉丸）を曳く。漁船をだんじりに転用した。
	福應神社 夏祭・秋祭（西宮市） 福應神社 TEL: 0798-26-0769 西宮市今津大東町 1-28	昭和 56 年（1981 年）より、夏祭（7 月第 2 土曜、日曜）・秋祭（10 月 13 日）のときに船型のだんじり（恵比須丸）を曳行する。
	西宮神社 渡御祭（西宮まつり） （西宮市） 西宮神社 〒662-0974 兵庫県西宮市社家町 1-17 TEL: 0798-33-0321 URL: http://nishinomiya-ebisu.com/event/eventOI.html#18	この祭事は、昔西宮の鳴尾の漁師が、神戸和田岬の沖で漁をしていたところ、えびす様の御神像がかかったので持ち帰ってお祀りし、さらに今の西宮神社の地にお連れしたという、神社の古い御鎮座伝説に由来するもの。和田岬への神幸は当社の神事の中で最も賑やかな祭りとして受け継がれてきたが、約 400 年前、織田信長の時代に社領を失ったため廃絶した。その後は祭典のみが厳修されていた。 昭和 29 年（1954 年）からは、みこし行列が市内を巡行する渡御祭(陸渡御)が再興されたが、平成 7 年の阪神大震災により中断。平成 12 年（2000 年）、震災からの復興のめどが立ち、みこし巡行を再興するに当たって「西宮まつり協議会」を結成し、念願の海上渡御を両興し、西宮港内を周航した。 平成 21 年（2009 年）は海上渡御祭再興 10 周年ということで、400 年前の古儀に倣い、全船団が神戸・和田岬まで参り、御旅所祭(おたびしょさい)を執り行った。このことを、えびす様が海から御生れになった地へお連れするということから、「産宮参り」と古くより言い慣わしてきた。 平成 22 年（2010 年）は、午前 10 時、御本殿でえびす様を神輿にお移しし、氏子四地区の内、当番の浜脇地区・前浜町にある辰馬本家酒造・白鹿本社工場構内にお旅所を設け、御旅所祭(おたびしょさい)を執り行い、宮司が祝詞を奏し、同地区の氏子の童女八人が神楽を奏した。 その後、車で新西宮ヨットハーバーへ移動、ここから海上渡御となり、御前浜沖にて海上の安全を祈る『かざまつり』を斎行し八乙女らが切麻(きりぬさ)で海上を御祓いた後、港内を周航し西宮神社に還御した。
	事代主神社（ことしろぬしじんじゃ）豊漁祈願の「水かけまつり」 （淡路市） 事代主神社（ことしろぬしじんじゃ） 所在地： 兵庫県淡路市飯屋 242 TEL： 0799-74-5975	毎年 9 月第 3 土曜日に行なわれる 豊漁祈願の「水かけまつり」は、漁業の町飯屋では有名な祭礼である。明治初期から続く伝統行事で、地元の船大工が地域の繁栄を願い、同神社にみこしを奉納したのが始まりとされる。御輿は道端から勢いよく浴びせられる水をくぐり抜け、最後には海へそのまま飛び込む勇壮な祭である。昔は若い衆が担いでいたので 喧嘩が絶えず「けんかされているまつり」とも言われていた。また、

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
兵庫県		みこしにまかれた胴巻きが、昔から安産のお守りとされており、これを取り合うところから「けんかまつり」の名がおこったとも言われている。
	宝の海神社豊漁祈願祭（神戸市）  神戸市漁業協同組合	神戸市西部漁業協同組合（当時）の山田岸松組合長が海洋環境の悪化や海上交通の輻輳化等で海上事故の多発を憂い、漁業者が安心して生業できる漁業漁村の創造を願って開催された。 （10月10日開催）
	浦祈禱祈願祭・浜芝居(恵比須舞) 石屋（いわや）神社 兵庫県淡路市岩屋字明神 7 9 9	石屋神社は、平安時代に書かれた、延喜式に登場する淡路で最も古い神社である。祭神は国常立尊（くにとこたちのみこと）・イザナギ尊・イザナミ尊の三柱。 3月第2土曜に「浦祈禱祈願祭・浜芝居」が行われ、一年の豊作・豊漁を祈願する。恵比須舞(えびすまい)は、えびす様が鯛を釣上げる場面は必見である。また、5・9月第2土日曜にはだんじりもくりだす祭りが行われ、島の人々の信仰も篤い神社である。

播 磨 灘

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
兵庫県	坂越（さこし）の船祭（赤穂市坂越） ※国指定重要無形民俗文化財 坂越の船渡御祭保存会 TEL：0791-48-8136 赤穂市坂越 1297 大避神社社務所内	大避（おおさけ）神社は祭神を秦河勝とし、坂越の産土神として信仰をあつめてきた。坂越の船祭は、この大避神社の秋の例大祭であり、神輿が神社から生島（いくしま）にある御旅所までを渡御するもので、この生島が浮かぶ坂越湾を舞台に繰り広げられる。毎年10月の第2日曜日の本宮では、神社から眼下の海岸まで、鼻高と獅子を先頭に各町の頭人が神輿に付き添いながら行列した後、海岸から御旅所のある生島まで二艘の櫓伝馬に曳航された獅子船五艘の頭人船、楽船、神輿船、歌船からなる船団を連ねて湾内を悠然と巡行する海上渡御となり、祭礼はクライマックスを迎える。江戸時代からほぼ変わらぬ姿で伝承されてきたこの船祭は、瀬戸内海を代

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
兵庫県		表する大規模な船祭の典型例として、平成 24 年（2012 年）3 月 8 日に国の重要無形民俗文化財に指定された。 また、かつて船祭に際して氏子各町が船檀尻をだしていたが、昭和 23 年（1948 年）を最後に途絶えていた。船檀尻の屋台部材が保管されていることが判明したこともあり、地元で保存会が結成され、平成 21 年（2009 年）に陸上で、平成 24 年は海上での復活がなされた。
	坂越盆踊り ※赤穂市指定無形民俗文化財 坂越盆踊り保存会 	寛永 16 年（1639）伊予国青島（当時は馬島）に移住した坂越浦の漁師与七郎ら 16 家族が、ふるさと坂越を偲んで始めたという盆踊りが青島に伝わっている（愛媛県指定文化財）。坂越でも、享和 3 年（1803）の『御役用諸事控』に、踊りは 2 カ所で行なわれ、取締りを受けているという記録がある。その後、明治、大正、昭和と継承されてきたが、大戦中は中断、戦後は青年団などで復活した。道路片側に音頭棚を設け、三味線、尺八、樽太鼓（4 斗酒樽）による囃子に合わせて唄い、踊り手は音頭棚の前で対向して 2 列になって踊る。地形的に広い場所のなかった坂越浦は、本町の海に面した通りで、仮装をして、2 列が互いに交差しながら踊る。大波小波が打ち寄せる様子を表した振り付けの踊りは、素朴で威勢のよいものである。 この盆踊りは、8 月上旬の「たこ祭り」と西之町の地蔵盆（8 月 23 日）で踊られている。
	赤穂浜鋤き歌 ※赤穂市指定無形民俗文化財 赤穂浜鋤き唄保存会 	浜鋤きとは、塩田作業の一つで、休み明け（冬季休業明け）などに、海水の上昇を促すため、牛犁・鉄万鋤（歯の部分金属製の万鋤）などの用具を用いて、固くなった地盤を掘り返す作業のことである。その際、浜男たちによる作業唄が「浜鋤唄」である。「浜鋤唄」が生まれた時期、その出現した場所、伝播の経路などは不明であるが、遅くとも江戸時代の中頃（18 世紀）から、赤穂塩田で働く人々（浜子・浜男）によって唄い続けられてきたものと考えられている。この唄は、各種イベントの開催時に披露されている。 瀬戸内海は全国でも屈指の塩田地帯であり、浜鋤き歌はこうした場での作業で歌われたものである。
	伊弉諾神宮(いざなぎじんぐう)春季例祭 伊弉諾神宮 兵庫県淡路市多賀 740 TEL:0799-80-5001 URL:http://izanagi-jingu.jp/hp/	淡路国の一宮である伊弉諾神宮の例祭は、中世・近世の蓮華会に由来し、元禄 5 年（1692）に現在につながる形で復興された。例祭では、多くの檀尻が出ており、その中に一宮丸という船檀尻が出る。元禄 6 年（1693）年郡家浦の船乗り 12 名が遭難し伊弉諾神に願を立て、無事に帰還したことを喜び、浦をあげて伊弉諾神宮に船檀尻を奉納したことに始まる。

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
兵庫県		春季例祭は4月21日～22日の2日間開催される。
	高砂神社船渡御（高砂市） 高砂神社 TEL：079-442-0160 E-mail:takasagojinja@gmail.com URL： http://takasagojinja.takara-bune.net/festival.html （高砂神社ホームページ） 	兵庫県高砂市の高砂神社秋祭り（毎年10月10・11日）で、3年に1度行われる神事。神輿を船に乗せ、海上渡御を行う。静粛な船上での神事と、氏子による勇壮な船積みと水揚げは圧巻である。 高砂神社は、江戸時代、姫路藩の需要港として繁栄した港町にある鎮守である。謡曲「高砂」発祥ゆかりの地で、「高砂相生の松」は、古くは『古今集』など和歌に詠まれ、風光明媚な白砂青松にかつてはあった。 船渡御は、高砂神社で、江戸時代から行われてきた秋の祭礼に行われる神事である。昭和戦中期をのぞいて続けられていたが、昭和40年以降20年間は中断されていた。昭和60年に再興されたが、平成5年以降は3年に1回行なうこととなっている。 10月10日の午前10時30分頃、神輿は神社を出発し、屋台や子供神輿と共に各町を練り、途中、栄町のお旅所でお旅所祭りをした後、再び町中を練り歩く。神輿の下を潜ると無病息災になるという。午後4時頃、堀川の船着場に集結し、締め込み姿の若衆50人が水中に入り、神輿を頭上に支えて、二隻の漁船を丸太で組んだ双胴船に積み込む。周囲には御座船を支える大勢の裸の若者がいる。「ヨーイヤサー、ソレッ、サッシマショー」の掛け声と共に、船渡御がゆっくりと始まる。御座船は曳舟に曳かれ、高張り提灯を掲げた供奉船14隻を従えて河口へと向かう。船団はさらに高砂浦を西へ回り、高砂港までの約3キロを海上渡御し、午後7時頃水揚げされる。そして、「ヨーサー」掛け声とともに、約300メートル離れた神社に還御する。神輿昇き・船積み・水揚げは8町会のうち3町がそれぞれ分担する。
	真浦の獅子舞 （姫路市家島町 真浦自治会） 真浦獅子舞保存会 TEL:079-325-0214 URL：http://www.city.himeji.lg.jp/ （姫路市文化財課ホームページ）	真浦の獅子舞は古くは文政3年(1820)頃に釜屋村から伝わったと推量される。毎年7月24日の宵宮、同25日の昼宮には家島天神社の氏神祭礼行事として獅子舞がとり行われるが、壇尻船と獅子舞の組み合わせには全国的にもあまり例がない。 獅子舞は二人一組になり「ささら」を交えて演技をする神楽の舞、花懸の舞、餌拾の舞、四方舞、洞入の舞、洞返の舞、八洲の舞や道中などがあり、獅

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
兵庫県		子 14 人、獅子笛 7 人「ささら」4 人からなる 25 人の獅子連中により演じられる。二隻の壇尻船には舞台を組んで天狗二人を先頭にして乗り込み、船上で舞いながら家島神社へ獅子舞を奉納する。伊勢太神楽系統の舞を伝承している。
	十日えびす（1 月 9 日～11 日）（明石市） 岩屋神社 TEL 078(911)3247 稲爪神社 TEL 078(911)3143  URL:http://www.yokoso-akashi.jp/event/346（明石市観光協会）	稲爪神社の稲爪浜恵比須神社や、岩屋神社（昔は岩屋恵比寿と呼ばれていた）には、商売繁盛や家内安全、海上安全、漁業繁栄を願って、たくさんの方が訪れる。十日えびすはもともと、旧暦の 1 月 10 日に行われていた。「えべっさん」や小判が豪華に飾り付けられた熊手は、「年中の福德をかきあつめる」縁起物と言われている。
	御厨（みくりや）神社 秋祭り（明石市） 御厨神社 TEL 078(942)3461  URL:http://mikuriyajinja.or.jp/freepage_12_1.html	4 世紀頃、神功皇后が韓国に遠征する時、この辺の浜に船を寄せ兵糧を集めたことから御厨（みくりや）との神名が付けられたと言われている。9 世紀後半に八幡宮を勧請。10 世紀後半には菅原道真が左遷され太宰府に向かう途中、この神社で休んだことから天満宮も勧請している。境内に、この伝説を伝える碑や、天満宮ゆかりの霊牛神社がある。海運関係者の信仰も厚く、鯛やタコを染め抜いたハッピー姿の若衆が担ぐ神輿は明石の秋祭り（10 月下旬の土・日曜日開催）を彩っている。
	左義長（明石市） 明石浦漁業協同組合	左義長は、平安時代、宮中で行われていた行事で、正月明け 1 月 15 日に御所の庭で、青竹を束ねたものに扇子、短冊、書などを添えて焼いた。次第に庶民に広がり、しめ飾り、書き初めなどを持ち寄って焼くようになり、明石でも昔から行われていた。明石浦の左義長は、15 年ほど前から漁業協同組合と地域が共同で行い、市内でも最大級のもので、早朝から高さ 12

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
兵庫県	 URL:http://www.yokoso-akashi.jp/event/347(明石市観光協会)	メートルの骨組みに張子の鯛、タコなどを飾りにそれを 1000 本の青竹で囲み、しめ飾り、門松などと一緒に燃やす。海上安全と豊漁を祈る魚のまち、明石らしい行事となっている。
	御崎神社 的射（明石市） 御崎神社 藤江の的射行事保存会 TEL 078-923-4627  URL:http://www.yokoso-akashi.jp/event/348(明石市観光協会)	平安時代の頃は、格式ある神社で山王権現と呼ばれていたと言い伝えられているが現在は市無形民俗文化財に指定されている神事、的射が有名である。伝説では、昔、神々の乗った船が藤江に来た時、船夫が誤って大きなアカエイの鼻に錨をおろした為、アカエイが怒って船夫の船を沈め、死んだ船夫が悪霊となり、村人たちに危害を加えた。この神社の山王権現が弓矢で悪霊を退治したことにちなんでいる。大前や弓立衆とよばれる 5 人の氏子が 30 メートル先の的に 21 本の矢を射て、悪霊を払い、豊作、豊漁を祈る神事である。1 月中旬頃に開催される。
	岩屋神社おしゃたか舟（明石市） ※明石市指定無形民俗文化財 岩屋神社 TEL 078-911-3247  URL:http://www.yokoso-akashi.jp/event/355	2 世紀中頃、明石に住む 1 人の子供に淡路の神から「明石に宮を造って祀るなら明石は栄えるだろう」とのお告げがあり、明石の村人 6 人が小舟に乗って神を迎えに行ったところ神舟に出会った。翌日神舟と共に流れ着いた浜辺に建てたのが岩屋神社と言われている。この伝説にちなんで毎年夏祭りに「おしゃたか舟」の海上神事が行われている。白のしめこみ、赤鉢巻姿の氏子 15 人が海に入り、サカキを立てた舟を押し進めながら「おしゃたか」と唱えます。おしゃたかとは、神様はおこしになったとの意味で、市無形民俗文化財に指定されている。7 月第 3 日曜日に開催される。
	灘のけんか祭り 潮かきの儀（姫路市） ※兵庫県指定重要無形民俗文化財 松原八幡神社 URL:http://www.nadamatsuri.jp/festival/index.html	姫路市白浜町の松原八幡神社で行われる秋季例祭の名称である。「灘まつり」は、また「灘のけんか祭り」とか、「妻鹿のけんか祭り」とも呼ばれ、古めかしい神輿をぶつけ合う特殊な神事によって、戦前から播磨を代表する祭りとして知られていた。戦後は、この神輿練りのほか、絢爛たる屋台を盛大に練り競う勇壮豪華な屋台練りが人気を呼び、国内はもとより海外にまでその名を知られるようになった。神輿をぶつけ合うの

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
兵庫県		は、神功皇后が三韓出兵の際、近くの港で停泊中の軍船が、波に揺られてぶつかり合う様を表現したとも、軍船の船底の牡蠣を、軍船をこすり合わせてそぎ落とした様とも言われている。 「灘まつり」の祭礼スケジュールは 10 月 14 日宵宮（夜宮）と 10 月 15 日本宮（昼宮）に分かれ、宵宮で幕を開け、翌日の本宮である御旅神社への神事渡行を氏子たちが精力を傾けて執行し、日暮れ時に神輿は松原八幡神社へ還御、屋台はそれぞれの村に帰着して祭行事の幕を閉じる。 灘のけんか祭りに先立ち、心身を清める儀式がある。「練り番」の村は、15 日早朝から「潮かきの儀」を行う。一の丸、二の丸、三の丸と描かれた三本の神輿幟（のぼり）を掲げて、練り番の氏子たちが海に飛び込んで互いに海水をかけあい、褌（みそぎ）を行う。七ヶ村それぞれ「潮かき場」は異なっている。「潮かきの儀」は古式ゆかしく風情がある。
	相生ペーロン祭（相生市） 相生市役所地域振興課 〒678-8585 兵庫県相生市旭 1 丁目 1 番 3 号 Tel : 0791-23-7133 Fax : 0791-23-7137  URL: https://www.city.aioi.lg.jp/site/peron/peronrekishi.html	ペーロンが、中国から日本へ伝来したのは長崎に 1655 年といわれている。長崎港を訪れた中国船が、強風のため出航できなくなったので、海神を慰めて風波を鎮めるためにこの「ペーロン」競漕を港内で行った。長崎の人達が競漕を行うようになり、長崎の年中行事の一つとなって今日に至っている。 大正 11 年（1922 年）に長崎県出身の播磨造船所従業員によって相生に伝えられ、終戦までは毎年 5 月 27 日の海軍記念日に同社構内天白神社の例祭として、ボートレースと共に行われたが、この異国情緒あふれるペーロン競漕を絶やすことなく続けたいと、戦後、市・商工会議所・播磨造船所の共催による「相生港まつり」として開催し、また前夜祭では花火大会も行われるようになり、現在の祭りの基礎ができた。昭和 37 年には、市、商工会議所、石川島播磨重工業の三者により「相生ペーロン祭協賛会」を結成し、翌昭和 38 年からは「相生ペーロン祭」の海上行事として盛大に開催されている。ドン！デン！シャン！と、中国特有の銅らと太鼓の音に合わせて力漕する姿は、まさに龍が水面を駆けるように壮観そのもので、盛大に行われている。毎年 5 月最終日曜日（前日の土曜日は「前夜祭」の花火大会）に開催される。
岡山県	唐子踊（瀬戸内市牛窓町） ※岡山県指定重要無形民俗文化財 唐子踊保存会	瀬戸内市牛窓町紺浦の疫神社（祭神素戔鳴尊）の秋の大祭に神事として奉納される稚子舞であり、由来は三韓起源説、地元創作説など諸説あり定かではないが、歌詞、踊子の服装から朝鮮半島とかかわりがあるようである。毎年 10 月第四日曜日の秋祭りに神事として奉納される踊りである。 異国風の鮮やかな色彩の衣装をつけた二人の男児が青年の肩に乗って参詣し、本殿、摂社と巡拝した後、

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
岡山県	 URL : http://www.okayama-kanko.jp/modules/kankouinfo/pub_kihon_detail.php?sel_id=860&sel_data_kbn=0	拝殿横の広場のゴザに降ろされる。踊り子は、片膝を立ててしゃがみこみ、「コンネン、ハジメテ ニホンヘワタリ ニホンノミカドハトオリマセン マセン ココロ ヨカンココロ ショガン オンレイモウス」の口上を述べた後に立ち上がり、囃子方の「ヒューホイ」の掛け声とともに意味のわからない歌詞に合わせて踊り始める。衣装も歌、踊りの動作など他に類を見ない独特のものである。
	綾浦太刀踊 （瀬戸内市牛窓町） ※岡山県指定重要無形民俗文化財 綾浦太刀踊保存会 	毎年 10 月第 4 日曜日に綾浦の御霊神社（瀬戸内市牛窓町綾浦）の秋祭に拝殿で奉納され、また正八幡宮（瀬戸内市邑久町尻海）、粟利郷神社（瀬戸内市牛窓町長浜）の秋祭りでも行われている。 綾浦では、12～13 歳の男子 2 人が黒紋付の袴掛け、前鉢巻きで男装して太刀を持ち、他の 2 人が腰元風に袴掛け後鉢巻きで女装し薙刀を持ち、もう 1 人の陣笠、黒紋付に袴を着けた男が太鼓を打ち、10 人近い青年の囃子につれて、エイオーの掛け声を掛けながら打ち合う動作を繰り返すもので、一見、歌舞伎の立ち回りの様である。この踊りの歌は、異国風で唐子踊りに似ているが意味不明のところが多い。 一方、粟利郷の太刀踊の踊り子は全て女子に限られている。由来は、神功皇后西征の帰りに歓迎にこたえて船の兵士が先端をたたいたとも、正八幡宮のご神体を奉幣した途中に船が難航し、ご神体を慰めるために船板をたたき囃子に合わせて踊ったともいわれている。この踊りは、江戸時代後期には既に行われていたことが記録に残っている。
香川県	庵治の船祭り （高松市） ※香川県指定無形民俗文化財 庵治皇子神社船渡御保存会 	庵治の船祭りは皇子神社の夏祭りとして旧暦の 6 月 14 日・15 日の満月に近い金・土曜日に行われる。祭りには、獅子舞 3 組と段尻 1 組が出る。 段尻とは、鉦打ち太鼓を中心に据え、長いかき棒を 2 本通して担ぎ上げるようにしたもので、一般的に「太鼓台」と呼ばれているものと基本的な構造は同じである。また、子ども用の段尻 2 組も出る。 昼宮祭（2 日目の夜）には、神社下の海岸（江の浦）に、漁船 3 艘を連ねて上部に舞台を設置した船が 5 隻並べられる。神輿を載せる神輿船 1 隻、獅子舞 3 組を載せる獅子船 3 隻、段尻を載せる段尻船である。神社境内から降りてきた神輿は神輿船に載せられ、段尻は江の浦で練った後、段尻船に積み込まれる。その後、3 隻の獅子船の舞台上で、獅子舞 3 組が同時に舞う。獅子舞が終ると、5 隻の船は船団を組んで対岸の御旅

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
香川県	URL : http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/11963.html	所へ向かう。御旅所でも江の浦同様に段尻が練り、獅子舞 3 組が船上の舞台で舞う。獅子舞の終了後、5 隻の船は船団となって海上を渡り、神社へと戻る。
	オシコミ（小豆島町） ※小豆島町指定無形民俗文化財 オシコミ保存会  URL : http://www.town.shodoshima.lg.jp/olive_station/aki-maturi-h23.html http://www.asahi.com/news/intro/OSK201210160151.html?id1=2&id2=cabcbabh	小豆島町池田の亀山八幡神社で毎年 10 月 16 日に行われる秋祭り。10 台を超える太鼓（台）が集まり、勇壮なかきくらべが行われる。お旅所には国重要有形民俗文化財の棧敷があり見物客は棧敷から太鼓（台）の芸を見る。 奉納される太鼓台のうち、神浦地区は毎年櫓こぎ船に太鼓（台）を乗せて海から神社に宮入りする。これをオシコミという。
	島四国、またはお大師さん 小豆島(土庄町・小豆島町)、栗島(三豊市)、伊吹島(観音寺市)、広島(丸亀市)、豊島(土庄町)、瀬居島(坂出市)など URL : http://www.shikoku-np.co.jp/feature/nokoshitai/henro/4/	小豆島(土庄町・小豆島町)では、新春から春の遍路シーズンに、また栗島(三豊市)や伊吹島(観音寺市)、広島(丸亀市)、豊島(土庄町)などでは旧暦 3 月 21 日に、瀬居島(坂出市)では新暦 4 月 29 日に、本島(丸亀市)では旧暦 3 月 4 日に島四国が行われる。 島四国(島によっては、お大師さんともいう)は、四国霊場八十八ヶ所のいわゆる写し霊場、またはその類似したもので、小豆島や本島では島内の寺院や堂庵を巡り、栗島や伊吹島、瀬居島、広島、豊島などでは小さな石仏が島内を巡るように配され、島四国の当日には、島民によるお菓子や飲み物の接待が行われる。島には多くの人びとが訪れ、信仰とハイキングを兼ねた行事となっている。 かつては、赤飯や甘酒など手作りのものをお接待するところが多かったが、過疎高齢や衛生面から袋菓子などに変わってしまったところがほとんどである。また、島の過疎高齢化によって、島四国の準備である道づくり(道をおおう竹や草を刈ったり掃除する)にも手が足りない状況で、行事の継続が厳しくなりつつある島もある。直島(直島町)や手島(丸亀市)でも行われている。
	小豆島農村歌舞伎（小豆島） ※香川県指定無形民俗文化財 ※記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財	香川県小豆島に伝承される民俗芸能で、役者、太夫、裏方すべてを地元住民が行う。伝統的に上方歌舞伎との関連が深く、地域的特色が顕著である。 最盛期には島内約 150 か所で上演されていたとされるが、現在は肥土山、中山の 2 地区で実施されてい

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
香川県	肥土山農村歌舞伎保存会 中山農村歌舞伎保存会 	る。 ・肥土山農村歌舞伎 開催日時：5月3日 開催場所：香川県小豆郡土庄町肥土山 ・中山農村歌舞伎 開催日時：体育の日の前日 開催場所：香川県小豆郡小豆島町中山 江戸末期の上方役者が小豆島に移住し、振付師として指導している。

紀伊水道

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
兵庫県	阿万の風流大踊小踊（南あわじ市） ※国指定重要無形民俗文化財 亀岡八幡宮 TEL：0799-55-0888 兵庫県南あわじ市阿万上町 385 URL： https://www.city.minamiawaji.hyogo.jp/soshiki/shakai/huryuodori.html （兵庫県南あわじ市 HP） 	風流踊（ふりゅうおどり）または風流（ふりゅう）とは、中世芸能のひとつで、鉦・太鼓・笛など囃しものの器楽演奏や小歌に合わせて様々な衣装を着た人びとが群舞する踊りである。南あわじ市阿万（あま）の亀岡八幡神社では、9月15日迄に近い日曜日に風流（ふりゅう）大踊小踊が行われる。風流踊の起源などはっきりとしていないが、「大踊」は室町から桃山時代、「小踊」は三味線音楽の影響を受けており江戸時代中頃から踊られていたと考えられている。風流踊りは、多額の経費を要するために「百石踊」ともいわれた。昭和42年（1967年）に兵庫県指定重要無形民俗文化財に、同47年（1972年）には国選択無形民俗文化財に指定され、平成23年（2011年）には国指定重要無形民俗文化財に指定された。
和歌山県	クエ祭（日高町） ※和歌山県無形文化財 日高町産業建設課 TEL：0738-63-3005  URL： http://www.pref.wakayama.lg.jp/pre/fg/071000/osakana/matsuri/matsuri	白鬚神社で江戸時代から続くクエを祭った豊漁を祈る伝統行事である。 クエ祭は日高町阿尾の白鬚神社で行われる江戸時代から続く豊漁祈願の祭事で、毎年10月に開催される。体長1メートルもある大きなクエの干し物を丸太に吊し、神殿へ奉納しようとする当屋衆（とうやしゅう）と、それを阻止しようとする若衆（わかしゅう）が、クエの御輿をめぐるもみ合う勇ましいケンカ祭り。当日はクエ祭りに併せてクエフェアーも行われ、各種PRイベントや高級魚 クエ鍋が賞味できる。

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
和歌山県	.html http://www.town.hidaka.wakayama.jp/p_guide/p_06_sangyo/p_kue.html	
	御坊祭（御坊市） ※戯瓢（けほん）踊 （国記録選択無形民俗文化財） ※御坊下組の雀踊 （和歌山県指定無形民俗文化財） 小竹八幡神社祭礼行司会  URL : http://www.city.gobo.wakayama.jp/kanko/kankou/maturi/1395035915456.html	御坊市の中心地である、御坊・藺の氏神である小竹八幡神社の祭礼として、同神社、本願寺日高別院（御坊市御坊）および御坊市街地において毎年10月4日・5日に開催される。 江戸時代、日高廻船の基地であった藪浦と、寺内町として発展した御坊町の人々が独特の奴衣裳を身につけ、9地区の氏子組がそれぞれ、幟上げ・奴踊・獅子舞・四つ太鼓など、数々の奉納芸能を演じる。 奉納芸能である戯瓢踊・雀踊・四つ太鼓等は、廻船により京都・大阪の祭礼文化が瀬戸内海を経て御坊にもたらされたものである。 獅子舞の頭は、瀬戸内に共通する張り子の獅子頭である。 祭りの食に欠かせない「なれずし」は、近海で捕れたサバを用いる。
	塩津のいな踊（海南市） ※和歌山県指定無形民俗文化財 塩津いな踊保存会  URL:http://www.city.kainan.lg.jp/kanko/matsuri/shiozu_inaodori.html	海南市塩津浦を回遊したボラの若魚「イナ」の豊漁を祈り、イナを捕る様子を踊りに振り付け、日の丸扇子や櫓をもって豪快に踊る。音頭取りが歌う踊り唄も男らしく、いかにも漁師町らしい威勢のよさが印象的な盆踊りで、蛭子神社前広場において毎年8月15日に開催される。 いな踊のイナは、瀬戸内を回遊するボラの若魚のことである。いな踊も若魚のイナのように躍動的であり、塩津浦の生活を支えたイナ網漁の様子を踊りの振りに仕組んでいる。かつて塩津の漁師は、日ごろ瀬戸内や五島列島各地へ漁に出かけ、数ヶ月も家に帰らないこともあったが、盆踊りには帰ってきたという。
	千田祭（有田市） ※有田市指定無形民俗文化財 須佐神社 URL: http://eonet.jp/danjiri/kansai/005/ http://www.city.arida.lg.jp/kanko/susa.html	有田市千田に鎮座する須佐神社の秋祭りで、江戸時代以前から始められていたが、詳細は不明である。須佐神社は、古くから漁業の神や船材としての樹木を供給する樹木神として、漁業や航海に携わる紀伊の海人から崇敬を受けた古社である。 千田祭は、有田地域の豊漁・豊作をはじめ、瀬戸内の航海の無事を祈った祭りであり、毎年10月14日に開催される。神饌の大鯛は、瀬戸内海の魚の代表格

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
和歌山県		であるタイを捧げたものである。 祭りでは、須佐神社から千田港へ神輿渡御を行う。御旅所での神事後、浜辺で行われる「鯛投げ神事」は、櫓の上から投げられた神饌の鯛2尾を、氏子の男たちが激しくもみあい奪い合う。この鯛を手にした者は、一年の豊漁、家内安全が約束されるとされ、競う様子から別名「けんか祭り」とも呼ばれる。
	淡嶋神社の雛流し（和歌山市） 淡嶋神社  URL: http://www.kada.jp/awashima/	3月3日の桃の節句に合わせ、全国の崇敬者から淡嶋神社に奉納された雛人形を舟に乗せ、祈りとともに早春の紀淡海峡へ流す神事である。 昭和37年（1962年）から始められた比較的新しい祭りだが、安産を祈り江戸時代から紀州徳川家が淡嶋神社に雛人形を奉納する習慣があり、その風習をもとに現在の神事のかたちとなった。淡嶋神社に納められた多数の雛人形を数隻の雛船に積み、女性たちが加太の浜辺まで担いで行き、海辺で神事を行った後、紀淡海峡へ雛船を流す様子は、早春の風物詩となっている。
徳島県	「恵比寿舞」（人形浄瑠璃の演目） 徳島県県民環境部とくしま文化振興課 TEL：088-621-2249 E-mail： tokushimabunkashinkouka@pref.tokushima.lg.jp URL：http://jorurikaido.com/ （人形浄瑠璃街道 HP）	徳島では古くから人形浄瑠璃が盛んに演じられており、阿波人形浄瑠璃として今日に受け継がれている。 人形浄瑠璃は西宮の人形操りから発展したもので、淡路から徳島へ、また関西各地への伝播・発展して、人形浄瑠璃として全国に広がったと言われており、海の神様であるえびす信仰を広めた西宮の人形芝居「えびすかき」を起源とする「恵比寿舞」は、お目出度い演目として今も県内各地の農村舞台などで演じられている。
	阿波井神社の秋祭り（例祭）（鳴門市） 所在地：鳴門市瀬戸町堂浦字阿波井 56 鳴門市観光振興課 TEL：088 - 684 - 1157 E-mail： kankoshinko@city.naruto.lg.jp	【10月9日】神社のある島田島から対岸の吉祥寺（江戸時代は阿波井神社の別当）の御旅所まで、御神輿の「水中渡御」がある。 小鳴門海峡の急流を渡るとき、地元漁師の「千才楽、万才楽」のかけ声も勇ましく、昔は海峡の急流をお神輿とともに泳ぎ渡ったが、今は2隻の渡御船にお神輿をのせて太鼓をたたきながら対岸に来る。 吉祥寺の境内で当家による餅投げが行われた後、お神輿の宮出しがあり、お神輿をかついで海に入り、お神輿と一緒に泳ぐ。その後、御旅所の吉祥寺を拠点としてお神輿をかついで、氏子が住む町中を練り歩く。 【10月16日 秋の大祭】平成9年の調査時では、

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
徳島県		前日の10月15日の午後7時ごろから、鳴門市里浦町里浦から来た里東繁雄氏（大正3年生まれ）が音頭出しに紺屋高尾や松茸狩りをはじめとするさまざまな伊勢節が2時間余りにわたって歌われた。 なお、里東氏は60年ほどずっと堂浦に来ているという。16日の大祭当日、お神輿をかつぎ、舟だんじりを押して町中を練り歩く。舟だんじりに子どもが乗って鉦・小太鼓・大太鼓をたたく。その後1週間ほど、町中を練り歩く。 【10月21日】御旅所の吉祥寺から対岸まで2隻の渡御船にお神輿をのせて渡し、お神輿をかついで神社に帰り、祭りが終了する。
	渦開き（鳴門市）  鳴門市うずしお観光協会 TEL：088-684-1731 URLhttp://www.naruto-kankou.jp/frame.htm	毎年、2月下旬～3月上旬頃に、春の鳴門海峡の観潮シーズン幕開けのイベントである『渦開き』を開催している。渦開きでは、観潮船から黄金の鍵を海峡に投げ入れたり、船上にて安全祈願の神事を行ったりする。
	阿波おどり（徳島市ほか） （一財）徳島県観光協会 〒770-8055 徳島市山城町東浜傍 1-1 TEL. 088-652-8777 URL: http://www.awanavi.jp/（阿波ナビ） http://www.city.tokushima.tokushima.jp/kankou/awaodori/（徳島市） 	400年の歴史を持ち、世界的にも名が知られる阿波おどりの起源については、色々な説がある。阿波おどりが、盛んに踊られるようになったのは、徳島藩祖・蜂須賀家政が天正14年（1586年）に徳島入りし、藍、塩などで富を蓄えた頃からといわれ、その後、藍商人が活躍し、年を重ねるごとに阿波おどりを豪華にしてきた。そこから阿波おどりは市民社会にも定着し、自由な民衆娯楽として花開き、特に戦後は復興の象徴として目ざましく発展してきた。 このような歴史を経て、阿波おどりは今では日本を代表する伝統芸能として世界にも知られるようになってきた。現在の阿波おどりは、毎年8月9日に開催される「鳴門市阿波おどり」を皮切りに徳島県内各地で開催されるが、最も賑わいを見せるのが毎年8月12日から8月15日の4日間開催される徳島市の阿波おどりである。 阿波おどりの起源とされる、3つの説を紹介する。 1）築城起源説 天正15年（1587年）に蜂須賀家政によって徳島城が落成した際、その祝賀行事として城下の人々が踊ったのが阿波おどりの始まり、とする説。

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
徳島県		2) 風流おどり起源説 阿波おどりの特色である組おどりが、能楽の源流である「風流」の 影響を強く受けているといわれ、寛文 3 年(1663 年)の「三好記」 に、天正 6 年(1578)年 に十河存保が勝瑞城で風流おどりを開催したという記述があり、これが阿波おどりの原型、とする説。 3) 盆おどり起源説 阿波おどりが旧暦の 7 月に行われた盆おどりである というもので、「俄」「組おどり」といった特殊なものが派生してきたとはいえ、その元は盆おどりである、とする説。
	佐田神社秋季例大祭（だらだら祭り） （阿南市） 佐田神社（徳島県阿南市椿泊町東 95） 問合せ先：阿南市役所文化振興課 0884-22-1798 	紀伊水道に展開していた、阿波水軍の長であった森家の功績を讃えるとともに、豊漁を祈願するお祭りである。男たちが神輿を担いで何度も海の中に入り、大漁を祈る。また、神輿を船に乗せて対岸の神社まで赴き、大漁と海上安全を祈願する。その際には大漁旗を掲げた漁船団が先導し、湾内をパレードのように行進する。 現在は祭りの期間が決められている（9月中旬の週末）が、過去には具体的な祭りの期間がなく、1ヶ月近くだらだと祭りが続いたという逸話があるため、通称「だらだら祭り」と呼ばれている。

備 讃 瀬 戸

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
岡山県	西行まつり（玉野市） 公益社団法人玉野市観光協会 〒706-0002 岡山県玉野市築港 1-1-3 TEL：0863-21-3486 FAX：0863-32-3331 	平安時代から鎌倉時代の僧侶であり歌人である西行法師が、諸国をめぐる旅の中で、白砂青松の美しい渋川海岸に立ち寄ったことを記念して「西行まつり」が開催されている。 西行法師についての話や西行うどんがふるまわれる他、西行法師ゆかりの地をめぐるクイズラリーなど西行を偲びながら毎年 3 月初旬に、玉野市渋川海岸において開催される。

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
岡山県	乙島祭り（戸島神社秋季例大祭）（倉敷市） ※倉敷市無形民俗文化財 乙島祭り保存会 問合せ先：倉敷市役所 086-426-3030 http://www.city.kurashiki.okayama.jp/otoshimamatsuri/ 	倉敷市玉島乙島の戸島神社の秋季例大祭のことであり、約 700 年の歴史があるといわれている。明治以前の御神幸は養父母大明神（戸島神社の旧名）、八幡宮が別々に行われていたが、明治 4 年（1871 年）に合祀され戸島神社と呼ばれるようになった。明治までは、乙島村の「志あげまつり」と呼ばれていたが、昭和 43 年（1968 年）より 10 月最後の土、日曜日と定められ、今日に至っている。 祭りは、担ぎ棒に布団と太鼓台をのせた千歳楽（8 台）、だんじり（1 台）とともに、お舟（3 台）と呼ばれる 2 本の担ぎ棒の上部に舟型をのせた大場物が朝 5 時ごろ神社境内に参集し、御霊移しの神事後に御神輿を先頭に出発し、一日かけて各町内を巡行する。夕方、御神輿と大場物が神社へ戻ってくると祭りは佳境に入り、勇ましいかけ声とともに 170 段の急な石段に沿って大場物を担ぎあげる姿は誠に壮観である。 このように乙島祭りは、近世末期の祭礼の要素を残しつつ、地域の特性である海の歴史を反映したものとして次代へと引き継がれている。
	おしぐらんど（笠岡市） ※笠岡市指定重要無形民俗文化財 おしぐらんど保存会 笠岡市役所 経済観光活性課 TEL：0865-69-2147 E-mail： keizaikankou@city.kasaoka.okayama.jp URL：https://www.city.kasaoka.okayama.jp/soshiki/28/b-osigura.html 	「おしぐらんど」は 2 艘の和船で競漕する行事で源平合戦に由来する行事ともいわれる。旧暦 5 月 5 日に近い日曜日に挙行される。 櫓を漕ぐことを、櫓を「押す」と言い、「ぐらんど」はこの地方で走り競争のことを「かけりぐらんど」ということから、おしぐらんどとは「船漕ぎ競争」という意味になる。 当日は金浦地区を東西に分け、それぞれの組の和船に 6 人ずつ乗りこみ、源氏方（白）・平家方（赤）にわかれて、金浦湾の沖合いから陸の方をめざして先を争う。漁業者の減少から一時は中止となったこともあったが、廃絶を惜しむ地元の努力により、昭和 62 年（1987）に復活し、盛大に挙行されている。
	神島（こうのしま）天神祭（笠岡市） ※笠岡市指定重要無形民俗文化財 笠岡市役所経済観光活性課 TEL：0865-69-2147 E-mail： keizaikankou@city.kasaoka.okayama.jp	神島 7 地区の千歳楽（せんざいらく：太鼓台）が、「島の天神」に集まる賑やかな秋祭りである。7 つの地区とは、神東、中村、汁方、福浦、高、寺間、見崎である。現在では、9 月第 3 日曜日に挙行される。もともと神島は離島であり、千歳楽は船を使って海から天神社に集まっていた。その後、笠岡湾干拓によって本土と陸続きになり、船が使えなくなった地区では、車を使った陸送へと変化した。いくつか

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
岡山県	URL: https://www.city.kasaoka.okayama.jp/soshiki/28/b-tenjin.html 	の地区では、船による「お渡り」を継承・復活させている。全地区の千歳楽が天神社に揃ったときに行われる「総担ぎ」も見どころの一つである。
	白石踊（笠岡市） ※国指定重要無形民俗文化財 白石踊保存会 笠岡市役所経済観光活性課 TEL：0865-69-2147 E-mail: keizaikankou@city.kasaoka.okayama.jp URL http://www.city.kasaoka.okayama.jp/soshiki/28/b-siraisio.html 	白石島は岡山県笠岡市沖合いの大小 30 余りの島々からなる笠岡諸島のひとつ。国立公園に指定されている周囲約 10 キロの島には 500 人余りの人々が生活している。 白石踊は源平の合戦で戦死した人々の霊を弔うために始まったと伝えられる踊りで、もとは回向（えこう）踊りと呼ばれていた。毎年 8 月 14 日～16 日の 3 日間、公民館前の広場で、盆踊りとして伝えられている。同踊りは口説（くどき）の歌と大太鼓による一曲の音頭に合わせて、男踊・女踊・奴踊・笠踊などそれぞれ異なった振り付け（13 種類）と衣装で一つの輪になり渾然一体となって、勇壮活発、豪華絢爛に踊られる。岡山県下三大踊りの一つとされている。 昭和 51 年（1976 年）には国の重要無形民俗文化財に指定され、白石踊保存会が中心となって同踊の保存と継承に努めている。なお、7 月下旬～8 月上旬の毎土曜日には観光客向けに、夕方から海水浴場の砂浜で披露されている。
	北木島の流し雛（笠岡市） ※笠岡市指定重要無形民俗文化財 笠岡市役所 経済観光活性課 TEL：0865-69-2147 E-mail： keizaikankou@city.kasaoka.okayama.jp URL: https://www.city.kasaoka.okayama.jp/soshiki/28/b-nagasi.html 	北木島大浦の海岸で、旧暦 3 月 3 日の満潮時、紙雛を乗せた小舟を海に流す伝統行事である。小麦わら、または厚紙を利用して小舟（うつろ舟）を作り、帆を立てる。その中に、毎月 1 体つくってためた 12 体の紙雛（閏年は 13 体）と、前後に船頭を乗せる。これにアサリ寿司や桃の花の小枝などを添えて、浜辺から海へと流す。 雛を送るのは女の人で、この雛に悩みや病気を託し、また家族の安全や子供の健やかな成長を願って、昼の満潮に乗せ、引き潮とともに「加太へ帰って下さい」と唱えながら流す。一説には、この行事が始まって、かれこれ 300 年にもなるという。 和歌山市加太にある淡嶋神社の信仰にもとづく行事で、もとは各家庭でめいめいに流していたが、現在では観光行事化し、大浦の浜から一斉に流している。なお、大浦の荒神社のそばに、淡島様の小さな祠が祀られている。

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
岡山県	真鍋島の走り神輿（笠岡市） ※笠岡市指定重要無形民俗文化財 笠岡市役所経済観光活性課 TEL：0865-69-2147  E-mail: keizaikankou@city.kasaoka.okayama.jp URL: https://www.city.kasaoka.okayama.jp/soshiki/28/b-hasiri.html	真鍋島で一年に一度行われる「走り神輿」は300年以上前から行われている伝統行事である。八幡神社の行事で、3体の神輿が島の通りを猛烈な勢いで駆け抜ける勇壮な祭りである。もともと秋祭りとして行われていたが、近年では毎年5月3日～5日の3日間に行っている。 祭りは、宵宮、本祭り、おかえりを3日間かけて行われる。3体の神輿それぞれに、輿守と呼ばれる担ぎ手8人とまとめ役の警護1人がつく。神輿を担ぐ前には必ず棒術と獅子舞を行い、危険な箇所を清めてから神輿を出す。八幡神社から下りた神輿が前の浜で飾り立てた漁船に寄せられ、海を渡って本浦地区に上陸し、その後、島の通りを駆けぬけるところが最大の見せ場である。海の安全や豊漁を願い元禄年間（1688～1704年）に始まった。
広島県	鞆の浦観光鯛網（福山市） ※福山市無形民俗文化財 公益社団法人福山観光コンベンション協会 TEL：084-926-2649 E-mail：kyokai@fukuyama-kanko.com URL： http://www.fukuyama-kanko.com/event/taiami/index.html 	鞆の浦の初夏の風物詩、観光鯛網。鯛網は、鞆の浦に約380年伝わる伝統漁法である。外洋で冬を過ごした鯛は初夏、豊後水道・紀伊水道を抜けて、産卵のため波穏やかな瀬戸内海中央部の鞆の浦沖へとやってくる。江戸時代初期までは陸地よりの地引網漁法であったが、いつしか産卵に来る魚群を待ち構えて捕えることが考案された。 航海の安全と大漁を願う樽太鼓と大漁節が浜中に響き、弁財天の使いの乙姫が大漁祈願の舞を踊り、手船という小さな船で弁財天の祈願して出漁する。古式そのままに網がしぼられ、参加者は潮風に吹かれながら、海の上から漁の様子を見学する。往時の姿をそのまま今に伝える観光鯛網は、見る人の心に深い感動を与えることでしょう。観光鯛網は、毎年5月頃に開催される。 （公益社団法人福山観光コンベンション協会HPより抜粋）
	鞆の浦のお手火神事（福山市鞆） ※福山市無形民俗文化財 沼名前（めなくま）神社 TEL(084)982-2050	お手火神事は、沼名前神社で行われる祇園祭の神輿渡御の前夜に行われる清めの神事で近世から周辺商人・漁民が多く参加してきた。海上安全を祈願し、夏祭の境内・町内の清祓、氏子・参拝者の病気厄払いとして7月第2日曜日の前夜に斎行される。 肥松を青竹で包まれた約150kgの大手火（松明）

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
	 URL : http://www.fukuyama-kanko.com/event/eve012.html	を3体作り、神門の前に立てたのち、夜に火がつけられる。この松明を拝殿までの大石段を担ぎ上げる勇壮な火の祭典で、福山市無形民俗文化財に指定されている。 商人・漁民は、海上で病気になると大手火の炭と幸の水を混ぜて飲むと治るとか、海上で方向を見失ったときは断片を燃やした煙に導かれて港に帰ってこられたなど、町民を始め多くの人々の信仰を集めている祭りである。 この『お手火祭り』は、「鞍馬の火祭り」（京都・由岐神社）、「那智の火祭り」（和歌山・熊野那智大社）と並ぶ日本三大火祭りに数えられおり、その起源も中世以前にさかのぼると伝えられている。
香川県	本島泊の虫送り(丸亀市)  URL : http://honjima2.blogspot.jp/2011/07/blog-post.html	本島(丸亀市)の泊では、毎年7月に木鳥神社にある集会場に人びとが集まり、虫送りの行事が行われる。まず大数珠をくり念仏を唱えてから、麦わらでつくった船とムラ境に立てる「百万遍」の道切り札をつけた青竹をもち、集落を巡りながらムラ境にお札を立て、途中で捕まえた虫を船に入れて、海に流す。 過疎高齢で行事の継続が年々厳しくなっている。また島内で麦の栽培が行われなくなったため、船は木の板などでつくられるようになった。
	金毘羅参り（琴平町） 金刀比羅宮 住所：〒766-8501 香川県仲多度郡琴平町 892-1 TEL：0877-75-2121（社務所）  E-mail : hisyo@konpira.or.jp（秘書室） URL : http://www.konpira.or.jp/menu/master/menu.html	「こんぴらさん」の名で親しまれている金刀比羅宮は、仲多度郡の琴平山（象頭山）に鎮座し、往古には大物主神（おおものぬしのかみ）を祀り「琴平宮（ことひらのみや）」と称し、永万元年（1165年）相殿（あいどの）に崇徳天皇（すくてんのう）を合祀した。 今も、農業・漁業・医薬・技芸など広汎な御神徳を持つ神様として、全国の人々の厚い信仰を集めている。浪曲「清水次郎長伝」の中にある「石松代参」もこの金毘羅参りである。 明治以前には、江戸を中心とした関東地方に飼犬を代わりに参拝させた“こんぴら狗”という習俗があった。犬は金毘羅参りの道中、多くの人々の世話を受けながら、主人の代参を立派に務めたという。 また、金刀比羅宮は瀬戸内海を行き来する船、または船で暮らす（生業とする）人には、海での安全を祈願して、「流し樽」（流し初穂ともいう）という風習があった。これは、海上船上で、初穂（賽銭）を出し合い、樽に詰めて金毘羅大権現と書いた幟を

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
		立てて流し、その樽を見つけた漁師は、福運の兆しと、これを本宮へ届けるというのである。
	ももて祭り（三豊市、坂出市） ※国指定重要無形民俗文化財 生里（三豊市） ※香川県指定無形民俗文化財 櫃石島（坂出市） 栗島、大浜（三豊市） 三豊市観光協会 Tel0875-56-9121 	ももて祭りは、春の初めに弓を射てその年の豊凶を占う素朴な祭りで、その中には農耕儀礼の古い信仰が見られる。現在では、厄年の男女の厄払い、大漁・豊作・海上安全を祈願して、毎年3月頃に行われている。 櫃石島のももて祭りの的は、角型の白紙に丸印を描いており、弓射がすべて終わってから射子たちが村中を真言を唱えながら巡ると、村の中の厄が追い払われると信じられている。
	与島・櫃石の盆踊り（坂出市） ※記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財 与島連合自治会 櫃石盆踊り保存会  URL : http://www.47news.jp/localnews/kagawa/2011/08/post_20110812104953.html	瀬戸大橋の架かる櫃石島や与島で、盆に行われる新仏供養のための盆踊り。新仏の燈籠を盆踊りが行われる会場の櫓につるし、その年亡くなった新仏の家族や親類縁者が、位牌を包んだ風呂敷を代わるがわる背負いながら踊る。盆踊りは8月14日に行われている。 島から離れた人も、この盆踊りの時には、亡くなった新仏の位牌や燈籠を持って帰り、踊ってあげる人も少なくなく、今も続けられている。しかし、櫓の上で島に古くから伝わる口説きと呼ばれる唄を歌える人がほとんどいなくなり、ゆったりしたテンポで踊られる供養のための盆踊りが、いつまで続けられるかは不透明である。位牌を背負う盆踊りについては、広島県や愛媛県の島嶼部にも点在している。

備 後 灘

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
香川県	賀茂神社長床神事（三豊市） ※香川県指定無形民俗文化財 賀茂神社長床神事保存会 	長床（ながとこ）の神事・ナナタビハンノツカイ・お船の巡幸等、県内では類例を見ない神霊を迎える特別な神事である。祭礼は、神船が町内巡行に出た後、長床の儀式が始まる。毎年10月第2日曜日に開催される。 長床の建物は本殿の西にあり、当日は竹矢来を巡らし、正面には間口が一間半位の門を作り、高張り提灯を立てる。長床では、床を背にして年寄が座り、頭屋が左右に分かれて座ると「舞酌」と称する袴を着た少年6人が2組に分かれ、1対となり酌をしていく。その間、謡曲の加茂・三輪等の脇能物の謡を唄う。やがて町内を巡幸した「御船」が、社の鳥居まで帰ってくると、「ハナデン」が、「御船が帰ってきたので、早く迎えに出るように」と告げる。 しかし、宴席の年寄も頭屋の人々も、「まだまだもてなしが足りない」と言って、なかなか腰を上げない。ハナデンが、御船と長床の間を七度半も往復すると、やっと腰を上げて迎えに出る。これを「ナナタビハンノツカイ」と呼んでいる。その後、御神体は鳳輦（ほうれん）に移されて、境内の西側にある浜ノ丁旅処頓宮に安置される。
広島県	吉和太鼓おどり（尾道市） ※広島県無形民俗文化財 連絡先：尾道市文化振興課 TEL：0848-20-7425  URL： http://www.hiroshima-bunka.jp/modules/newdb/detail.php?id=291	戦に敗れた足利尊氏が西走中に尾道の浄土寺に立ち寄り、ばん回を祈願した際、吉和の漁民が船手として従軍した。その後、尊氏は九州を統一し東上する途中、再び浄土寺に船を寄せて戦勝を祈願し、吉和漁民に褒賞を与え、御座船の型を漁船に用いることを許した。この恩賞に感激した吉和漁民が大太鼓と小太鼓を組み合わせて踊ったのが始まりと伝えられ、隔年の8月18日に浄土寺に奉納される。 また吉和地区に厄病が蔓延した際、浄土寺の観音様に祈願したところたちまち病気が治ったので、お礼として旧暦の7月18日にこの踊りを奉納したともいわれている。
	棕浦（むくのうら）の 法楽（ほうらく）おどり（尾道市） ※広島県無形民俗文化財 棕浦法楽会保存会 （広島県尾道市因島棕浦町）	法楽おどりの起源は明らかでない。地元の所伝によると、中世に因島を中心に活動した海賊衆（いわゆる村上水軍）が、出陣のときは合戦の勝利と兵士の安全を祈り、帰陣のときは勝利を祝うとともに、戦死者の追悼を行ったといい、この出陣・帰陣の行事を起源とするという。若武者らしい軽装、刀を頭上にかざしての早駆けの姿勢や跳ぶような動作は、

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
広島県		こうした海賊衆との関連をうかがわせる。 江戸時代となり、海賊衆としての活動が禁止されると、この行事も次第に変容し、「虫追い」「五穀豊穡」「疫病払い」などを祈願する行事となった。さらに明治時代になると、旧暦の7月16日（新暦の8月15日午後4時から）に行われる送り盆の行事となった。因島一円で行われていた法楽おどりも、現在は、棕浦と外浦（とのうら）の2か所のみで行われている。開催場所は、尾道市因島棕浦町内の5か所（艮（うしとら）神社境内、金蔵寺（きんで開催ぞうじ）、胡堂跡地前、棕浦海岸、墓地の前）である。
	津部田（つぶた）住吉祭りの曳船（尾道市） ※尾道市民俗文化財 津部田伝統保存会  URL: http://www.hiroshima-bunka.jp/modules/newdb/detail.php?id=294（ひろしま文化大百科 HP）	住吉祭りは約300有余年前の江戸時代初期、海運の隆盛を祈願して始められた。当時津部田地区は天然の良港で五鳥（ごからす）神社近くまで海で安芸の宮島の管絃祭りのように管絃船を海に浮かべ巡幸していた。 お囃子のチャンギリ、戻り太鼓は北前船が東北から運んできたもので青森のねぶた祭り、秋田の竿灯のお囃子によく似ている。江戸時代、元禄年間、塩田を開拓するため海が埋め立てられ、管絃船は陸に上がり、担がれるようになった。住吉祭りに、男神輿、女神輿、子供神輿の舟形三神輿で町内を練り歩く。住吉神社境内では、神輿まわしなど勇壮な姿が見られる。3艘の曳舟を担ぎ、五鳥神社に奉納する。毎年、7月の中から下旬に、尾道市向島町津部田の五鳥神社で開催される。
	岩子島（いわしじま）厳島神社管絃祭（尾道市） ※尾道市民俗文化財 岩子島民俗文化保存会 	岩子島厳島神社は一説では安芸の宮島より古い神社だとも伝えられ、江戸時代寛永9年（1632）に再建された記録が残っている。祭りは宮島の管絃祭の流れを汲んでいる。 岩子島沖合で御座船、伴走船の提灯がゆらめき、幽玄な雅楽の調べが響き、幻想的な平安絵巻が繰り広げられる。 管絃祭は、毎年7月下旬または8月上旬に、尾道市向島町岩子島の厳島神社で開催される。
	浮鯛祭り（三原市） 連絡先：三原市漁業協同組合 TEL 0848-62-3056	三原市幸崎能地沖では、かつて潮流の影響により浮き袋の調節ができなくなった鯛が浮く「浮鯛」という現象が見られた。この「浮鯛」にちなんだ浮鯛

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
広島県		祭りが数百年にわたり行われている。この神事のいわれは、神功皇后が三韓征伐の際に能地沖に軍船を泊め、海神に供えるため海中に酒をそそいだところ、鯛が酔って浮上した。そこで漁民がその魚を獲って献上したところ、皇后は大変喜び、漁民に全国どここの海に行って漁をしても良いとされたという。毎年3月の第4土日に春祭りで開催される。
	権伝馬（かいでんま）（大崎上島町） 連絡先：大崎上島町観光協会 TEL0846-65-3123  URL : http://www.hiroshima-bunka.jp/modules/newdb/detail.php?id=895	古くは村上水軍の襲艇（早船）にルーツを持つといわれる権伝馬競漕。大崎上島町の東野では住吉神社、木江では厳島神社、沖浦では恵美須神社の祭礼の伝統行事として行われている。船の大きさは12メートル左右に7名の漕ぎ手が座り、舵取りの他太鼓叩き、船首と船尾には子供が乗る。レースの合間には子供が「だいふり」と「けんがいふり」と呼ばれる舞を披露し祭りを盛り立てる。 この権伝馬競漕は6月の旅する権伝馬、7月下旬～8月上旬の木江十七夜祭、ひがしの住吉祭で見ることができる。
	能地春祭のふとんだんじり（三原市幸崎町） ※広島県無形民俗文化財 連絡先：三原市教育委員会文化課 文化財係 TEL 0848-64-9234 E-mail : bunka@city.mihara.hiroshima.jp 	（由来）幸崎町能地は、近世に家船で瀬戸内海各地に進出した。各地に寄留し、枝村（分村）を形成していった。年2回は親村である能地に帰ってくることになっており、各地から情報や文化を伝えた。その一つに今日の浜の祭を構成する中の「獅子太鼓」と「ふとんだんじり」がある。佐江崎村誌（昭和元年、1926年）には、「伊予多度津方面より見て帰りし・・・」と述べられており、約250年位前に四国方面から伝えられたものである。 （内容）毎年3月、浜の氏神である常磐神社の祭礼が行われる。通称「ふとんだんじり」と呼ばれるこの祭は、神明祭から始まるが、今日では、3月の第4土・日曜日に行われる「ふとんだんじり」と「獅子太鼓」の二つがメイン行事となって伝承されている。この祭には、4町内会から各1台の楽車が出され、神輿とともに町内にある3神社（常磐神社、幸崎神社、老婆社）に奉納される。楽車は赤蒲団が7枚積まれ、中に太鼓打ちに決まった子ども8人（各町内2人）が各々の楽車に乗り込み、若者達がかついで町内を練り歩きながら神社へと進む。獅子太鼓は町内を出発する時、楽車に乗り込む時等に打たれますが、8挺の太鼓を並べて打つのは、3神社の社前で行う奉納太鼓のみである。現在、38手の打ち方が伝えられている。

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
愛媛県	西条祭り（西条市） ※西条市の指定無形民俗文化財 西条市役所 観光物産課 TEL 0897-52-1446 URL : http://iyokannet.jp/front/spot/detail/place_id/2552/ 	西条祭りは、約 150 台余りのだんじりやみこしが奉納される絢爛豪華な祭りである。祭りの目玉は 10 月 16 日の「川入り」で、13 時頃から各だんじりは市内と伊曾乃神社の間を流れる加茂川河川敷に集合し、夕闇迫るなか神様の御神輿の渡御を見送ろうと、約 80 台余りのだんじりが土手にずらりと一列に並び提灯を灯す様は幻想的で壮観である。祭の終わりを惜しみ、御神輿を川から出さまいと伊曾乃地区のだんじりが川の中で御神輿を取り巻く様は言葉では語れない迫力がある。 もともとは石岡神社、伊曾乃神社、飯積神社の三神社の祭礼を指していたが、近年、嘉母神社の祭礼もこれに含めた祭りを西条祭りとしている。それぞれの神社によって、祭礼に奉納される山車は異なっており、石岡神社、伊曾乃神社では楽車（地元では「だんじり」と称する）と御輿屋台（地元では「みこし」と称する）が、嘉母神社と飯積神社では太鼓台が奉納される。ただし石岡神社では御輿屋台のことをさして「太鼓台」と呼んでいるが、本来の御輿屋台の分類は太鼓台に属している。
	三島水軍鶴姫まつり（今治市） しまなみ商工会大三島支所 TEL : 0897-82-0795 URL : http://www.go-shimanami.jp/event/m07/15.html 	大三島に因んだ「鶴姫行列」と「鶴姫レース」をメインとした「三島水軍鶴姫まつり」を実施し、歴史ある観光地にふさわしいイベントとして、レジャーシーズンにあわせた効果的なしまなみ地域への集客をアピールすることにより、県内外の観光客誘致を図るとともに周辺住民の活性化と観光振興に寄与する。 開催時期：毎年 7 月下旬頃開催 開催場所：宮浦港周辺（今治市大三島町宮浦） 事業内容：1. 鶴姫行列 2. 鶴姫レース（権伝馬レース） 3. ステージイベント他
	水軍レース大会（今治市） 水軍レース実行委員会 （事務局：宮窪町漁業協同組合） TEL : 0897-86-2008 URL : http://www.go-shimanami.jp/event/m07/06.html	「水軍レース大会」は、約 450 年前、村上水軍が使用していたとされる和船（小早船）5 隻を復元し、200 メートルの直線コースのタイムを競う和船レースをメインとして、この他にも地元の郷土芸能披露、潮流体験等を企画し、周辺地域はもとより県内外の観光客誘致を図り、地元の活性化及び観光振興に寄与するもの。 開催時期：毎年 7 月下旬頃 開催場所：村上水軍博物館前特設会場（今治市宮窪町宮窪） 事業内容：1. 水軍レース（62 チーム参加）

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
愛媛県		2. 宮窪夢花火 (1) 郷土芸能 (2) 餅まき (3) 花火大会
	龍神社の祭礼（今治市） ※愛媛県指定無形民俗文化財 今治市観光課 TEL：0898-36-1541 九王獅子連  URL： http://www.islands.ne.jp/imabari/kan-ko/tsugi/index.html	九王龍神社に約 200 年の昔から受け継がれてきた伊勢代神楽の流れを汲む伝統芸能で祭神の海上渡御の先導として御旅所までの海上及び道中において繰り上げられる。神輿船に随行する獅子船の船上で行われる獅子舞、継獅子（三継、四継）が奉納される。 開催時期：毎年 5 月第 3 日曜日 開催場所：九王浜 200m 沖（今治市大西町九王） 行事内容：継獅子、神輿船に随行する獅子船の船上で行われる獅子舞。 演目 ・ 悪魔払い ・ 立芸 （三継・四継・五継） ・ 餅つき
	大浜の權伝馬 （今治市） 今治市観光課 TEL：0898-36-1541 	大浜八幡大神社の祭礼で、二艘の伝馬船にそれぞれ船首船尾に踊り手の男児 1 名ずつと囃子方がのり、船首は「ボンデン」船尾は「剣權」をもって踊る。毎年 10 月第 2 日曜日に大浜八幡大神社（今治市大浜町 3 丁目）で開催される。 ※現在は 1 隻のみで運航。もう一隻は港に係留し、展示。
	棕名（むくな）の權伝馬 （今治市） 今治市観光課 TEL：0898-36-1541	渦浦八幡神社の祭礼で、神輿船 1、權伝馬 1、曳き船 3、の計 3 隻で、太鼓と音頭に合わせて、それぞれがボンデンと剣權を持つ歌舞である。 毎年 10 月体育の日とその前日に、棕名沖の海上（今治市吉海町棕名）、神輿の海上御渡の練りに伴い行われる。

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
愛媛県	小部（おべ）の獅子舟・神輿舟（今治市） 今治市観光課 TEL：0898-36-1541	白玉神社、素鷲（すが）神社の祭礼で、神社周辺で神輿 2 基と獅子の練りを行い、漁船 4 隻（獅子舟 2 隻・神輿舟 2 隻）が海上で継獅子（二段・三段）を演ずる。 毎年 5 月第 4 日曜日に、白玉神社、素鷲神社境内から小部港までの往復と小部港にて開催される。
	尾形八幡秋祭り（今治市） 今治市観光課 TEL：0898-36-1541	尾形八幡神社の祭礼で、引き船、ダンジリ・獅子を乗せた船、櫓、神輿御座敷船など計 12 隻が幟旗で飾り、海上に一列で並び海上を進む。 毎年 10 月（第 2 日曜日と体育の日の 2 日間）に宮窪港沖の海上（今治市宮窪町宮窪）で行われる。

安 芸 灘

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
広島県	柏島の管弦祭(柏島神社大祭)(呉市安浦町) 連絡先：安浦漁業協同組合 TEL0823-84-2003 URL: http://www.hiroshimabunka.jp/modules/news/article.php?storyid=61	呉市安浦町の無人島柏島にある柏島神社に伝わる神事。毎年 7 月上旬に豊漁と海上交通の安全を祈願して開催される。尾道吉和や地元安浦などの漁民が漕ぐ引き舟が御神体を載せた御座船を先導し、周囲 4 キロメートルの柏島を 1 周する。後方には大漁旗を掲げた漁船が続き、勇壮な海上絵巻を演出する。この祭りは宮島、大三島と並ぶ瀬戸内海の三大管弦祭として知られ、尾道、竹原、豊島、蒲刈島などから多数の漁船が集まることでも有名である。
愛媛県	興居島（ごごしま）の船踊り（松山市） ※愛媛県指定無形民俗文化財 問合せ先： 松山市文化財課 089-948-6603	船越和気比売神社の秋の祭礼に神輿の海上渡御に供奉して演じられる芸能（風流）である。この踊りの起源は明白ではないが、島の伝承によると、むかし内海にその威をふるった伊予水軍の勇士が、遠く転戦して凱旋するごとに、戦いの模様を留守の家族に演じてみせたのが、氏神の祭礼行事となり、伝承されたという。 10 月 6 日に、伝馬船をもやって舞台を設け、歌舞伎や新作の舞踊などを演じる。演目は、「伊予水軍」「大阪城夏の陣」「先代萩」「太功記」「曽我兄弟」などで、大太鼓と拍子木に合わせた立ち回りがある。同時に、船のヘサキではボンデン踊りといって、氏子の中泊、軒島、由良、門田の 4 集落が奉納することになっていた。権伝馬は、瀬戸内海地域に広く祭

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
愛媛県	URL: https://www.city.matsuyama.ehime.jp/kanko/kankoguide/rekishibunka/bunkazai/ken/gogosimano_funaodori.html	礼行事として行われるが、豪快勇壮な船踊りは、独自の地方芸能として極めて珍しい存在である。
	北条鹿島まつり（松山市） 北条商工会 TEL：089-993-0567 E-mail： hojo-shokokai@bell.ocn.ne.jp 	北条の春の恒例の祭典「北条鹿島まつり」は、愛媛県指定無形民俗文化財の指定を受けている伝統の「権練踊り」など、勇壮な海の男たちによる海上絵巻が鹿島周辺で繰り広げられるほか、年に一度の「大注連縄の張替え」も鹿島海上の伊予二見（玉理・寒戸）で行われる。また、さまざまなイベントも盛りだくさんである。 鹿島まつりは、毎年5月3日、4日に行われ、北条沖にある夫婦岩の「大注連縄の張替え」は、海上安全・五穀豊穰・大漁を祈願し翌日行われる。

広島湾

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
広島県	瀬保姫（にほひめ）神社の獅子舞(広島市) ※広島市指定重要無形文化財 瀬保姫神社獅子舞保存会 	この獅子舞は、広島湾内に浮かぶ海村であった仁保島の総鎮守（瀬保姫神社）と、仁保島の主要な産業であった漁業に携わっていた氏子に伝わった祭礼行事である。近世以降の干拓により陸続きとなった後も途絶えることなく、瀬戸内海沿岸の伝統行事として現在に継承されている。 伝承によると、今から約400年前に仁保島一帯に悪病がはびこり、村人は大いに苦しんだ。色々手立てを尽くしたが、悪病は止まなかった。万策尽きた村人は、想像上の霊物である「獅子が悪霊を食い払い救ってくれる」との古くからの言い伝えに従って、獅子を神社に奉納し、これを持ち出して家々の邪気を祓ったところ、悪病はたちどころに止んだという。以来、悪霊の取り払い、心身の清めに「獅子の祓い」としての獅子舞が行われる。なお、社蔵の獅子頭の一つに「延享四（1747年）卯天二月吉日」の墨書銘がある。 氏子の家々を一軒一軒回る「みそぎ（はらえ）」行事は、瀬保姫神社の例祭日（10月29日の直前の日曜日）の前、約10日間、神輿渡御の道行きの先導は、例祭日に行われる。
	阿多田神社秋季例大祭（大竹市阿多田）	阿多田島で毎年10月13日に行われる「豊漁」を祈願するお祭り。前夜祭の12日夜には、阿多田神社にて「お湯立ての儀式」が行われ、大釜の中の「御

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
広島県		幣（ごへい）を立てたワラの輪」がくるくるとまわれば、次の年も豊漁になると信じられている。13日のお祭り当日には、「おしこみ」と呼ばれる、大漁旗をつけた二隻の船が息をぴったり合わせて阿多田の港を三回まわる行事が行われる。ちなみに「おしこみ」とは、幸せをおしこむ・豊漁をおしこむという意味があるらしい。
	朝鮮通信使再現行列（呉市下蒲刈町） 連絡先：公益財団法人蘭島文化振興財団 TEL：0823-65-2029 E-mail：info@shimokamagari.jp  	下蒲刈町には江戸時代に広島藩の海の窓口として関所（海駅）が置かれていた。徳川幕府と友好関係にあった朝鮮王朝からの使節団である朝鮮通信使は、この地に11回立ち寄って盛大なもてなしが行われ、その歓待ぶりは「安芸蒲刈御馳走一番」と称された。朝鮮通信使の一行は、沿線の各藩の接待を受けたが、1682年に將軍から「どこの藩の接待が良かったか」と問われた際、随員の対馬藩主が「安芸の蒲刈御馳走一番」と絶賛した。この言葉を記念して、朝鮮通信使資料館は「御馳走一番館」と命名された。この御馳走一番館には、朝鮮通信使饗応料理の「七五三膳」「三汁十五菜膳」の模型が展示されています。これは、徹底的な資料集めと時代考証を重ね、2年間かけて完成したものである。資料に則った材料で当時のままに料理を作り、それを型にとって本物そっくりの模型に仕上げた。1711年、使節団500人を迎えた際、材料表には、「白米877升、酒289升、卵2272個、キジ300羽、ダイコン1,117本」などの記述があり、大歓待の様子がうかがえる。その当時の行列の再現が毎年10月に、下蒲刈で行われる。総勢290人による通信使行列、ステージイベント、抽選会などが催される。観客数は5,000人を超える大きなイベントである。
	くらはし遣唐使船まつり（呉市倉橋町） くらはし遣唐使船保存会 連絡先：呉市役所倉橋市民センター TEL：0823-53-1111 E-mail：kurasis@city.kure.lg	「日本の渚百選」に選ばれた呉市倉橋町の「桂浜」は、かつて遣唐使が中国への往来の際に立ち寄った場所とされ、万葉集にも詠まれている。また、古くから造船が盛んであった倉橋は遣唐使船をも造っていたとされることから、桂浜の東端にある「長門の造船歴史館」には、平成元年に広島県主催で開催された「海と暮らしの博覧会」の際に建造された復元遣唐使船が展示されている。 この美しい海浜と木造船技術の歴史を伝承するべく、平成20年から「くらはし遣唐使船まつり」を開催している。毎年7月に開催され、イベント当日は「長門の造船歴史館」の無料開放、遣唐使の仮装行列、地元小中学生等によるステージイベント、地元産品の販売を行うが、このまつりの圧巻は3,000発の打ち上げ花火である。桂浜の目の前の海

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
広島県		から打ち上げ、観衆の頭上で大輪が大轟音とともに炸裂し、花火のカーテンが降り注ぐその迫力。さらに、桂浜の湾の背後には、国会議事堂を造った議員石として有名な倉橋の花崗岩を切り出した石切場がそびえており、これが轟音を跳ね返すスピーカーの役割をし、他の花火大会では味わえない迫力満点の花火大会となっている。 また、まつりの翌日に実施する（平成 24 年で第 13 回目の）「くらはしアクアスロン大会」を共同開催イベントに位置づけ、夜の天空ショーと共に、日中の桂浜の綺麗な海、瀬戸内海を代表する美しい海岸線をコースとして競技し、海文化の P R ・継承を目的に、住民の手作りで運営している。
	厳島神社管絃祭（廿日市市宮島町） 連絡先：厳島神社 TEL0829-44-2020 URL：宮島観光協会のページ http://www.miyajima.or.jp/event/event_kangen.html 	管絃祭は旧暦の 6 月 17 日大潮の日に、世界遺産である宮島厳島神社で御神体の海上渡御を目的として、10 日間に渡り繰り広げられる、瀬戸内海を代表する海の祭りである。平安時代、貴族たちは池や河に船を浮かべて管弦の遊びをしていた。管絃祭はそれが海上渡御となったもので、平清盛が信仰する厳島神社に移し、神事として行うようになったと言われている。大阪天満の天神祭、松江のホーランエンヤと共に日本三大船神事のひとつである。
	坂八幡神社秋祭りの寄進物「曳船」（坂町） 坂八幡神社 広島県安芸郡坂町 坂東二丁目 8-1 	毎年 10 月に行なわれる坂八幡神社秋祭りに、横浜地区から寄進される曳船は、古くから続く伝統行事で、ほら貝と曳船音頭で盛りあげながら、波穏やかな風や怒濤にもまれて御座船が航海する様子を揃いの法被姿の若者達によって繰り広げられる勇壮な行事である。

周 防 灘

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
山口県	深浦管絃祭（下松市） 深浦自治会・管絃祭実行委員会 深浦公民館 TEL：0833-52-0948 	毎年旧暦 6 月 17 日の夜に、安芸宮島の厳島神社と同じように、深浦の東と西より、大きな打瀬船一艘ずつに、たくさんの提燈をともし、月の上りと同時に船を出して、海の中の厳島明神様にお参りし、海の安全を祈願する。たくさんの提燈が夜の海を照らす光景は、とても幻想的。打瀬船から管絃の音も聴こえてくる。
	貴船神社の貴船祭(周南市) 杵島公民館 TEL：0834-84-0312 URL： http://www.mlit.go.jp/crd/chirit/image/100kei-sukumo.pd 	ふぐ延縄漁発祥の地・周南市杵島。「海を渡る神輿」として全国的に有名な貴船神社夏祭りは、約 150 年前に安全と大漁を祈願して行われたことを起源として伝えられている。毎年 7 月下旬に開催される。 身を清めた若者が、みこしを担いで海に入り、貴船神社と御旅所までの約 500 メートルを渡る勇壮な海の祭である。貴船神社を出た金色の神輿は海に入り、白装束を着た若者に揉まれながらお旅所へと運ばれる。その光景をカメラに収めようと、多くの写真家も訪れます。海上安全を祈願して始められ、150 年以上の歴史があるといわれている。平成 21 年（2009 年）には「島の宝 100 景」に選ばれている。
	神舞（かんまい）（上関町祝島） 上関町教育委員会 祝島区・祝島 神舞奉賛会 TEL：0820-62-0245 URL：www.iwaishima.jp/ 	伝承によると今から千百十余年の昔、仁和 2 年（886 年）8 月、豊後伊美郷の人々が山城国石清水八幡宮より分霊を奉持して海路下向中、嵐に会い祝島三浦湾に漂着した。当時この地には三軒の民家があり、住民は厳しい自然環境の中、苦しい生活であったが一行を心からもてなした。その時に教わった荒神を祭り、農耕（麦作）を始めたことにより、以後島民の生活は大きく向上した。それからそのお礼にと、島民は毎年 8 月に伊美別宮社に「種戻し」に欠かさず参拝をした。そして 4 年に一度伊美別宮社から 20 余名の神職、里楽師を迎え、祝島を斎場に神恩感謝の合同祭事を行うようになり、今日にいたっている。 この祭りは、山口県と大分県との海上 49 キロメートルを三隻の神船が往復し、百余隻に及ぶ大漁旗で飾った奉迎船や權伝馬船が織りなす勇壮な入船・出船の海上神事が行われ、新調の苫で覆われた仮神殿で、伝統にのっとり古式豊かに三十三種類の神楽舞が奉納される。

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
山口県	御年祭（防府市） 矢立神社 	山口県周南市北西部の和田三作地区で古くから伝承され、国の重要無形文化財に指定されている「三作神楽（みつくりかぐら）」が防府市野島（のしま）の矢立神社に奉納される。 野島御年祭は、明治22年（1889年）頃から始まったとされており、悪疫退散などを祈り、4年に1度、2日間にわたって、入船神事、道中シャギリ、神殿清め舞、神迎えの神事、清めの舞などの神楽及び神送りの神事が行われる。最近では平成26年（2014年）10月25、26日に開催されている。 神楽の一行は周南市から迎えの船で野島に向かい、港に到着すると船上で舞を演じる。
	丸尾十七夜管弦祭（宇部市） ※宇部市無形民俗文化財 丸尾十七夜管弦祭保存会 	丸尾十七夜管弦祭は、旧暦6月17日に行われてきた祭りで、満潮に近い頃に合わせて管弦船で丸尾港内を巡航するものである。管弦船は、全長約14mの「おかげん船（ぶね）」と呼ばれる漁船（「大漕ぎ」ともいう）で、約250の提灯（ちょうちん）を取り付けています。管弦船に横笛や太鼓を演奏する者が乗り、「しゃぎり」と呼ばれる管弦楽を演奏する。現在では、旧暦6月17日に近い土曜日に開催している。 瀬戸内海の沿岸地域である宇部市東岐波丸尾の伝統行事である。
福岡県	苅田山笠（かんだやまかさ） ※福岡県無形民族文化財 苅田山笠保存振興会 苅田町役場 TEL：093-434-1111 	苅田町北部の産土神（うぶすながみ）である宇原神社の神幸祭（じんこうさい）は室町時代に始まった。神様がお旅所に行幸される際に、御神輿の供として、各区（村）の氏子は笠鉾（かさほこ）や鉾山（ほこやま）を出した。これが発展して現在の山車（やま）となった。この山車は、岩山、提灯山、幟山と姿を変えて巡行する。山車は、村人が神を敬い、自然・環境の保全、暮らしの繁栄と感謝の気持ちを表している。この神幸祭と山車が巡行する一連の祭りを「苅田山笠」と総称し、570年の歴史と伝統ある祭りとなり、今日まで継承されている。祭りは町民の愛郷心や連帯感を育み「まちづくり」にも貢献している。神社近くの区は、幟山で海岸に汐汲みに行き山笠を清めている。 ・開催場所：苅田町役場駐車場 （一連の行事は、宇原神社・苅田駅周辺・各区等にて行われる。） ・開催日時：10月の第1日曜日 （一連の行事は、毎年9月下旬から始まる。）

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
福岡県	URL http://www.town.kanda.lg.jp/_3861/_3908/_3955.html	
	放生会（ほうじょうえ）（福岡県築上郡吉富町） （仲秋祭・海上渡御祭、にな流し） 八幡古表（はちまんこひょう）神社 福岡県築上郡吉富町小犬丸 353-1 TEL：0979-22-3237  【八幡古表神社 HP】 URL： http://kohyoujinjya.jimdo.com/ 【吉富町 HP】 URL： http://www.town.yoshitomi.lg.jp/	奈良時代に始まる宇佐放生会は、仏教の殺生を戒める教えにならって、供養のため捕らえた生き物を野に放してやる宇佐神宮寺の弥勒寺の重要な行事であるが、平安時代の古くから上毛郡と下毛郡の古表社が、宇佐の和間の浮殿の前の海上で、傀儡子舞を奉納していた。江戸時代になると、古表社は独自でこの祭を行なうようになった。以前は、8月15日の仲秋祭で4年に1度行なわれていたが、今は8月6・7日、乾衣祭（おいろかし）と一緒に行われている。山国川を海上一里（約4キロメートル）にかけて上下して、放生儀式と細男舞が執行され、蜷などの魚介類が放される。古表神社境内では細男舞・神相撲・神楽などが奉納される。
	蓑島百手祭（みのしまももてまつり） （行橋市） ※行橋市指定無形民俗文化財 	蓑島百手祭とは、弓矢で的を射て吉凶を占い、繁栄を祈る神事である。江戸時代まで各地の神社で行なわれていたが、明治時代以降次第に減少した。そのなかで、蓑島百手祭は、室町時代からの伝統を今に伝え、毎年5月21日の夕刻、蓑島神社にて、法泉寺・西方寺・浄念寺とともに神仏一体となって執り行われている。 中世の蓑島は海上交通の要衝であった。しかし、室町時代後半の戦国時代、瀬戸内海を横行していた水軍（海賊）が度々来襲して島の安全は脅かされていた。島民は弓術を修め、結束してこれに対抗したといわれている。この祭りは、戦乱の時代に島の平和を願って放たれた百手の矢に由来している。 祭りは、まず籤幣によって射手（イボコモチ）となる2名の若者が選ばれる。次に、神社南西にある小祠の前に海賊の目に見立てた巨大な的が2張り用意され、射手は的に向かい矢を2本ずつ射る。命中するとその年は豊漁が約束されるという。続いて子供たちによりの的が壊され、その破片は無病息災を願って家々に祀られる。また、長寿を迎えた夫婦がつくったケーラン団子も奉納される。この祭りは、古式な格調を残した貴重な民俗行事である。 （福岡県 HP より引用）

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
福岡県	宇島(うのしま)祇園(宇島神社春季神幸祭) (豊前市) ※豊前市指定無形民俗文化財 宇島祇園保存会 	文政 8 年（1825 年）6 月 5 日の夜、時の豊前小倉藩主小笠原忠固（ただたか）公が海路参勤交代の途中、宇島港築港工事の進捗状況を視察に訪れようとしたが、折からの時化で御座船は入港できず困りはてていた。これを知った地元の漁民たちは 10 艘の小船で沖に漕ぎ出し、無事御座船天祥丸を港へ曳航して、藩主の難を救った。 さらに翌日には御座船を沖まで見送り、祝いの舟歌を連唱したところ、藩主は大いに喜んだという。 これを記念して、翌文政 9 年（1826 年）より 6 月 6、7 日の両日殿様祭りとして祇園祭を執り行うようになった。現在は、5 月 3・4・5 日に開催されている。 上記由来のとおり、海上で難儀をしていた藩主を地元漁民たちが救いだしたことに始まる祭である。 山車は、船車 1・踊り車 5・傘鉾 1 が町内を練る。これに神輿が加わる。この中で特徴的なのが船車天祥丸で、船を象った山車となっている。船車に御座船天祥丸の名前を戴いている点は藩主救出の勲章といえる。この祭の特徴の一つに、舟歌がある。3 日間かけて町内各地の巡幸先 56 箇所舟歌を歌う。由来で述べたように、藩主を見送る際に祝いの舟歌で喜ばせたことに因んでいる。
大分県	ホーランエンヤ(豊後高田市) ※大分県選択無形民俗文化財 豊後高田市商工観光課 TEL : 0978-22-3100 E-mail : c-hatabe@city.bungotakada.oita.jp  URL : http://www.city.bungotakada.oita.jp/dekigoto/page_00381.htm	毎年、正月の大潮の時期に併せて行われる「ホーランエンヤ」県選択無形民俗文化財のこの祭りは、江戸時代中期に始まったといわれている。当時長崎県島原藩の属領であったため、年貢米を島原や大阪の蔵屋敷に船で送っていたが、その廻船の航海の安全と豊漁を祈願する行事で、新年を祝うたいへん勇壮な祭りとして、知られている。 豊後高田市の中心を流れる桂川を舞台に、大漁旗や万国旗などで彩られた「宝来船」に締め込み姿の若者と囃し方、踊り子など関係者が船に乗り込み、下流の金比羅宮を参拝した後、“ホーランエンヤ、エンヤサノサッサ”と言う掛け声とともに、川をジグザグに漕ぎあがり、上流の若宮八幡宮を目指す。 川上りの途中船上では、エビス様、ダイコク様の 2 神に扮した少年が踊って祭りを盛り上げ、途中川岸の観客から祝儀やお供え物が差し出されると、漕ぎ手の若者が勢いよく厳寒の桂川に飛び込んで受け取りに行き、船が岸に近づくとも見物客めがけて船上より紅白の縁起餅をまく。 最後に漕ぎ手の若者はお供え物を持って、若宮八幡宮に参拝に行く。祭りの最後には、市役所前でたくさんの縁起餅が撒かれる。
	姫島盆踊り（大分県東国東郡姫島村）	姫島の盆踊りは、鎌倉時代の念仏踊りから発展したものとされており、毎年 8 月 14,15 日に、キツ

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
大分県	姫島村役場 〒872-1501 大分県東国東郡姫島村 1630 番地の1 TEL 0978-87-2111 FAX 0978-87-3629  URL : http://www.himeshima.jp/kanko/festivals/karei/index.html	ネ踊り、アヤ踊り、銭太鼓（ぜんだいこ）、猿丸太夫（さるまんだゆう）などの多くの伝統踊り、創作踊りが披露される。 キツネ踊りは大人の踊りであったが、昭和20年代に大人から子どもの踊りとなり、北浦地区の子供たちによって踊られるようになった。可愛らしいキツネの化粧とユーモラスなしぐさで人気を集めている。 アヤ踊りは北浦地区の青年男女によって踊られるもので、男女各々1名が一組となり、男子はアヤ棒といわれる青竹をもち、女子の間を縫うように激しく踊る。 銭太鼓は松原地区の青年男女によって踊られるもので、男女各々1名が一組となり、男子は銭太鼓といわれるフグの皮を張った片面の太鼓をもち、女子の間を縫うように腰を落とし踊る。男子の重厚な踊りと女子の優雅な踊りと対照的なおどりである。 猿丸太夫は、西浦地区の女性によって踊られるもので、姫島在来の踊りではなく何時の時代か村外より移入されたものといわれており、優雅な踊りである。

響 灘

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
山口県	めかり神事（下関市） 住吉神社 TEL:083-256-2656 	住吉大神が祀られた時、神功皇后が神職に銘じて壇ノ浦の和布（ワカメ）を刈り取らせ、神前にお供えた故事に始まる。 旧暦の元旦未明、壇ノ浦海岸において和布を刈り採り、午前6時に神前に供えて祭典を行う。神社・海岸間を往復する奉仕者（神職）の松明行列や、実際に和布を刈る採る様子を見ることは、禁忌とされている。 午前6時の祭典の後は、社頭にて参拝者に開運和布を授与され、それを食べることで1年間の無病息災を祈願する。
	しめなわ祭（下関市・立石稻荷） 赤間神宮 TEL:083-231-4138 URL:http://www.oidemase.or.jp/tourism-information/spots/10457	壇之浦海中の大石に神官がしめなわを張る神事である。 昔、大雨、台風、火災、疫病と悪いことが続いたとき、神が倒れている大石を起こせば災害がなくなると告げられ、この大石を起こしたところ災害がなくなったという故事に由来している。関門海峡の冬の風物詩として有名である。 祭日は、12月10日。まず赤間神宮でしめ縄のお払いが行われ、赤間神宮十人会・岸敬会の手により壇之浦漁港に運ばれる。山口県漁協壇之浦支店の奉仕船に乗り、立石稻荷のご神座・烏帽子岩（えぼし

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
山口県		いわ）にしめ縄をかけ、清め祓いを行い、航海安全大漁豊満を祈る。
福岡県	脇之浦はだかまつり（北九州市若松区） 北九州市漁業協同組合脇之浦地区 TEL：093-751-3954  URL： http://www.city.kitakyushu.lg.jp/wakamatsu/file_0028.html	新しい年を迎え、寒さが一段と激しさを増す 1 月 10 日、北九州市若松区大字小竹の脇之浦漁港一帯で、勇壮な裸祭りが行われる。 海の男たちが豊漁と航海の安全、家の繁栄を祈願する「脇之浦はだかまつり」は、400 年近い歴史を持つ、脇之浦地区の伝統行事である。さらしを腹にまいた男衆が、力石を妙見神社に奉納する。この祭りの見どころは、19 時 30 分から、妙見神社での若潮くみに始まり、妙見・恵比須・白山神社への若潮奉納、そして、白山神社からは松明と共に下山し、さらし腹巻姿の青年達が歓声をあげて海に入り、力石を探し、恵比須神社に奉納して、大漁や海の安全、家の繁栄を祈るというものである。この祭りは、昔、壇之浦の戦に敗れた平家の上野浦一族の 7 人の武士が、苦難の末、1 月 10 日に脇之浦にたどり着いたことで起こったと言われている。その 7 人は、人目に付かぬようこっそり暮らしていたが、傷が元で次々と 4 人までも亡くなったそうである。残った若武者が海で拾った石を 4 人の塚として毎日祈っていると、ある日、石が笑ったように見えた。何か良い事がありそうな予感で、翌日、海でみつけた石を恵比須神社のご神体として祭ったところ、3 人の武者は漁にも嫁にも恵まれ、幸せな生涯を送ることができたといわれている。以来、1 月 10 日に、10 日（とうか）を縮めた「とし、とー」と言いながら、若者が村中をまわって集めた餅やにぎり飯を持って恵比須神社に集まり、火をたいたり、太鼓をたたいて夜を過ごす。そして、海より石を拾って恵比須神社に奉納すると、その年のうちに嫁に恵まれ、また、石が大きい者ほど魚がたくさん取れると言われて祭りが行われてきた。 今では、祭りの形は少し変わったが、冷たい冬の海に若者達が勇ましく飛び込んで行くのは、海に生きる者達が大漁と安全と暖かな家庭を祈る素朴な姿であり、昔から、そして、これからも変わることのない祈りとなっている。（北九州市 HP より転載）

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
福岡県	藍島盆踊(北九州市小倉北区) ※北九州市無形民俗文化財 ひびき灘漁業協同組合藍島支所 TEL : 093-751-1550 URL : http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kokurakita/file_0103.html 	小倉港の北西約 14 キロメートルの海上、響灘に浮かぶ藍島に伝承されている盆踊り。樽と太鼓と三味線の勇壮な曲にのってリズムカルに踊るこの盆踊りは、関門地方に同種のものが数多く分布している。 輪の中心に樽をすえ、太鼓 2 個と樽 1 個、三味線に合わせ、音頭取りの口説歌で輪踊りをする。踊りの所作は総体的に大振りである。この踊りの特徴は、1 人の太鼓打ちが大小 2 個の太鼓と樽 1 個を組み合わせて打つところにあり、その豪快な響きに海の男の心意気があらわれている。毎年盆の 8 月 14、15 日と同月 24 日の地蔵盆の日に渡船場で踊られている。(以上：北九州市 HP より転載) 市指定無形民俗文化財(昭和 58 年(1983 年) 2 月 21 日指定)
	和布刈神事(北九州市門司区) 和布刈神社 TEL : 093-321-0749 URL : http://www.city.kitakyushu.lg.jp/moji/file_0075.html 	和布刈神事は神功(じんぐう)皇后[4 世紀後半頃の伝説的人物で仲哀(ちゅうあい)天皇の皇后]が三韓征伐[神功皇后の馬韓・弁韓・辰韓征伐の物語]からの凱旋を祝って、自ら神主となり、早鞆の瀬戸のワカメを神前にささげたという古事に由来している。昔は「神事を見ると目がつぶれる」と言われ、神罰を恐れて拝観する者はいなかったが、戦後から拝観は解禁となっている。行事は、毎年旧暦元日の早朝に行われている。横代湯立神楽(よこしろゆたてかぐら)が奉納された後、3 人の神職が干潮の海に降りて鎌でワカメを刈りとり、それを神前に供えて航海の安全、豊漁を祈願する。漆黒の闇を背景に烏帽子、狩衣、白足袋に草履姿の神職たちが、松明を頼りにワカメを刈り取る様子は幻想的で、関門海峡兩岸の人々に春の訪れが近いことを感じさせてくれる。(以上：北九州市 HP より転載)

伊 予 灘

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
愛媛県	青島の盆踊り(大洲市) ※愛媛県指定無形文化財 大洲市役所長浜支所地域振興課 TEL : 0893-52-1111 URL : http://www.city.ozu.ehime.jp/life/facilities/ken_aoshima.html	青島の盆踊りは、長浜の沖合に浮かぶ青島で、8 月 14・15 日の両日、夜を徹して演じられる盆踊りである。 青島はもともと馬島、またの名は沖水無瀬島といい無人島であった。寛永 16 年(1639 年)、播磨国坂越浦(現兵庫県赤穂市坂越)の与七郎という者が、一族など 16 戸を率いて移住して、以来望郷と無聊の生活を自ら慰めるために、毎年 8 月 14・15 日に氏神(坂越神社の分身)の前で踊り明かしたのがはじまりと伝えられている。

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
		現在は、13日に「賤ヶ岳七本槍」の装束で魚の供養としての大漁踊りを、14日に「赤穂四十七士」の装束でその年に亡くなった人の霊を慰める亡者踊りを、それぞれ行っている。踊りの種類には「白石踊り」「三つ拍子」「きりあい」「いなおさえ」「笠踊り」「綱ひき」「木山踊り」などがあり、全体的に赤穂の郷愁を感じ起こすような出し物や演出が多い。昭和40年（1965年）4月2日に県指定無形文化財に指定されている。
大分県	ヨーヤラ（大分市） ヨーヤラ船保存会 大分市教育委員会文化財課 TEL 097-537-5639 E-mail: bunkazai@city.oita.oita.jp 	正月十日に豊漁祈願のため、恵比寿さまのお祭りを2年おきに行う。きれいに飾られたヨーヤラ船の舳先でふたりが踊り、他の者は八挺櫓をこいで港近くの海を3回まわった後、船を岸壁につけて餅まきをする。踊り手は恵比寿様と大黒様に扮し、太鼓の音に合わせて「ヨーヤラ」と掛け声を上げて踊る。
	夏越祭り「潮汲み」（大分市） 杵原八幡宮 TEL 097-534-0065 	杵原（ゆすはら）八幡宮の夏越（なごし）祭りを締めくくる行事である。神輿が出て行列を組んでおくだりをし、西大分の港で海水を汲んだ桶に榊を浸し、海難事故防止を祈願し、四方に撒き清めをおこなう。例年、8月2日に開催される。

豊後水道

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
愛媛県	由良神社裸まつり・和舟競漕（宇和島市） 津島町下灘公民館 TEL：0895-35-0001 	宇和島市津島町の祭りの幕開けとなる由良神社裸まつり（和舟競漕）。下灘地区の伝統行事として、約170年の歴史があり、毎年7月に開催される。10丁櫓の木造船2隻に上半身裸の若衆が約30名ずつ乗り込み、海の豊漁を祈願する行事。上半身裸の男たちが櫓を漕ぐため、「裸まつり」といわれる。
	十日えびす（八幡浜市） 八幡浜魚市場協議会  URL:http://www.minatto.net/archives/1895	八幡浜大神宮内（八幡浜市神宮前）の恵比須神社に奉ってあるえびす像を、魚市場内につくった祭壇に移して神事を行い、その後像を三方に乗せ、当日の朝一番早く帰港した漁船の上へと持ち運ぶ。そして、神官が像を縁起笹で飾った船首から海中へと投げ入れると、おはらいを受けて待ち構えていた漁船員が続いて海へ飛び込み、像を拾い上げる。海水で清められた像が再び三方の上へ戻されると、めでたく終了となる。毎年旧暦の1月10日に開催される。 このえびす像は、今から約170年前の天保年間（江戸時代）に八幡浜市沖の佐島に流れ着いているのを山伏が見つけ、えびす堂を建立して祀ったと伝えられている。 十日えびすが現在の形になったのは、昭和37年（1962年）で、それまでは、海岸で神事だけを行っていた。像を海から拾い上げることが「海の幸を拾う」ことに繋がり、豊漁に結びつくと言われる。また、像がもともと海を漂流していたことから、海を恋しがっている像を年に一度海に戻すといういわれもある。「航行中の安全」と「豊漁」を祈願して行われる。
	柏崎岩神社漁止祭り（愛南町） 愛南町柏崎地域 	旧内海村（現愛南町）柏崎には寛永3年（1706年）創建とされる地区の氏神「岩神社」がある。今からおよそ200年前の享和3年（1803年）柏崎浦の網元久之熊のカツオ一本釣り船が由良岬沖合16キロメートルの「鮪子瀬」付近に出漁中に鯨の群れに出会った。鯨が船の近くで交互に跳ね上がり、海は大きな波とうねりで船が転覆しそうになった。 カツオ船に乗り組んでいた漁師たちは氏神である岩神社に一心に祈った。8月12日には絶対に漁に出ないから無事に帰らせてほしいと願いをかけた。すると不思議なことに波は穏やかになって無事に帰ることが出来た。それ以来柏崎の漁師たちは8月12日にはどんなことがあっても漁に出ないことを申し合わせ、氏神さまへのお礼に麻糸を紡いで織り上げ

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
愛媛県		た幟旗を奉納した。この幟旗は今でも現存する。 今では柏崎地区全体の祭りとして旧暦 8 月 12 日に開催されている。岩神社での神事後、大人が担ぐ樽神輿と子供たちが担ぐ子供神輿とが神社の急な石段を下りて地区内を練り歩く。もちまきのあと漁船所有者のくじ引きがあり、岩神社、由良神社、竜王神社の三本でくじにあたるとそれぞれの神社名を書いた旗とお神酒が渡され、その旗を船首に立てて海上パレードの先頭にたてる。おまけに同僚の仲間からは着の身着のまま海中に投げ込まれる。これはくじにあたったものを祝福し、身を清めて海の安全と村の繁栄を願うという意味合いのものである。
	トントコ踊り（宇和島市） ※宇和島市指定無形民俗文化財 トントコ踊り保存会 	宇和海地区の蔦淵には、「トントコ踊り」とよばれる盆踊りがある。江戸時代に旱天・不漁・疫病がうちつづいたとき、昔、落鼻で遭難した平家の落人の祟りによるものと考え、正徳元年（1711 年）に、その落人の供養塔を落鼻に建てた。その時にはじまった供養の踊りといわれている。 8 月 13 日の夜、2 艘の舳い船を踊りの舞台として、蔦淵七浦を回漕しつつ、各浦の新盆を迎えた新仏と、各地区の神仏にささげられる。新盆の家は、酒一升と肴を献じて新仏の供養に踊ってもらうのである。 15 日は、昼間の踊りで、まず、蔦淵に祀られている神々に踊りを捧げる。タンゴ様には日向踊り、戎様には宮島踊りといったように、神様ごとに、献ずる曲目がほぼ決まっている。踊りは陸を背にし、沖を正面にして踊る。さらに落鼻の沖でも、四八人の平家の落人の霊をなぐさめるために、四八庭（庭とは踊りの回数）の踊りを納める。このときは踊りの数をまちがえないように、一庭ごとに竹筒に刻みをいれ、全部の踊りが終わると、その竹筒に酒をつめて海に流す。そのあとは絶対にふりかえってはいけないという禁忌がある。 踊り手は、昭和 25、6 年（1950 年）頃までは、14 戸ほどあった網元のオーゴ（網子）が、になっていたが、現在は青年団員が踊る。踊り手 8 人は右手に 1 メートルほどの紙垂（紙のフサを竹の両端に飾った棒）を、体の前で、八の字にまわしながら、太鼓・鉦・口説きにあわせて踊る。 踊りは宮島踊り・住吉踊り・寺見踊り・花見踊り・新吾踊り・日向踊りの六種をかぞえる。これらの歌章には、豊漁・航海安全を祈願したり、恋の歌をうたい新仏の鎮魂をはかるものが多い。 13 日の夜がふけるのも忘れて、トントコ、トントコという鉦・太鼓の音にあわせて若者たちが踊り、ひと庭ごとに住民が踊り船に向かって拍手をおくる。新盆の家々では、この踊りで故人への思いを新

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
愛媛県		たにするのである。昭和 51 年（1976 年）11 月に「保存会」が結成された。
大分県	山内流游泳所開所（臼杵市） 臼杵市役所生涯学習課臼杵山内流担当 TEL0972-63-1111 E-mail : k-hirakawa@city.usuki.oita.jp  URL: http://www2.city.usuki.oita.jp/kyouiku/mamoru/saihakken/amabe/yamautiryuu.htm	臼杵山内流は、江戸時代後期の文政 5 年（1822 年）に、四国松山範の山内久馬勝重が臼杵藩の藩士稲川清記に、新たな泳法として伝えたのが始まりで、以後臼杵藩の代表的な泳法となり、今年 190 周年を迎えた。 この山内流は、毎年、臼杵市中津浦の鯉来ヶ浜（けいれいがはま）に 7 月 21 日から 20 日間、游泳所を開き、児童生徒に伝授し、最終日の 8 月 10 日には游泳大会があり、泳法披露が行われている。伝統的な古式泳法・臼杵山内流を大切に後世に継承するため、各種の事業を行っている。
	五丁の市（佐伯市） 佐伯市観光協会 TEL : 0972-23-1101 E-mail : yuusuke@city.saiki.lg.jp 八幡地区公民館 連絡先 : ☎0972-27-8001  URL : http://www.yappa-saiki.sakura.ne.jp/saiki-kankou/raku/cat23/post_73.html	佐伯市戸穴（ひあな）の大宮八幡神社の大祭「五丁の市」は、豊漁と海の安全を祈願する伝統の祭りで、一番の見せ場は佐伯湾内を勇壮に巡る名物のジョーヤラ船である。 ジョーヤラ船には祭りの役員や 5 色のたすきを着けた彦陽中学校 2、3 年生が乗り込み、同神社近くの笹良目港を出港する。「漁あれ」のはやし言葉が由来といわれる「ジョーヤラ」「ジョーヤラジャー」の掛け声とともに、櫓（ろ）をこぐ踊りを披露する。色とりどりの大漁旗をひるがえしたジョーヤラ船が湾内の港を回っていくと、それぞれの波止や堤防には大勢の見物客が集い、2 時間余りの航行で祭り会場がある五丁の浜に到着する。 午後から「神幸祭」や本殿からお旅所まで子どもみこしや稚児行列、2 日目は五丁の浜相撲場で子ども相撲大会、忠魂碑前での慰霊祭、お旅所で神楽などが奉納され、夕刻 4 時頃の還幸祭をもって幕を閉じる。
	早吸日女神社夏祭り（大分市） （はやすひめじんじゃ） 早吸日女神社内事務局 （大分市大字佐賀関 3329 番地） TEL : 097-575-0341	紀元前 667 年、神武天皇の東征の途中、速吸の瀬戸（豊予海峡）にさしかかった際、異変が起こり、船が進まなくなりました。何事であろうと海中をうかがうと、巨大なタコが神剣を抱いているのが見えた。ときに、その様子を知った海女の姉妹、黒砂（いさご）と真砂（まさご）は、海中深く

府県名	海文化（伝統行事名）	伝 統 行 事 の 内 容
大分県		に潜水し、タコと戦い、ついに神剣を取り上げて天皇に献上した。神剣が取り上げられると、船は元の様子に戻り、航行を再開したが、海女の姉妹はともに絶命したという伝説がある。この神剣を御神体として、神武天皇自ら早吸の神と称し、祓戸（はらへど）の神々を奉斎され建国の大請願をたてたのが早吸日女神社の始まりである。上記のことから、早吸日女神社はたこと深いつながりがあり、現在でも「蛸断祈願（たこたちきがん）」というものがある。 これは、絵馬のかわりにたこの絵が描かれた紙を奉納し、一定期間たこを食べずにいると願い事が叶うといわれ、全国的にも非常に珍しい祈願である。また、神社の神職はタコを食べない。早吸日女神社では、毎年7月28～30日に、夏祭りが開かれ、みこしが町をめぐる。また、佐賀関の海士たちが、アワビやサザエなどをお供えする伝統が続いている。
	関の鯛つり唄（大分市） NPO 法人さかのせきまちづくり協議会 TEL：097-575-2000 	大分市佐賀関は、大分市の東部に位置し、豊後水道を挟んで四国愛媛県の佐多岬を望むことができ、沖合には県天然記念物であるウミネコの栄巣地である高島が浮かび、「関あじ・関さば」ブランドで有名な漁業の盛んな町である。 元禄時代の頃から漁師に歌い継がれてきた「関の鯛つり唄」にあわせて、伝統の一本釣り漁の豊漁を願って勇壮な踊りが繰り広げられている。また、「関の鯛つりおどり大会」に先立って、むかしながらの櫓おし舟（和船）で競争する「おし初め大会」が行われている。 毎年9月上旬に、佐賀関漁港（県漁協荷さばき施設前）、佐賀関市民センター、ふれあい広場で開催される。 ・鯛神輿入魂式：午前11時～ ・大漁おし初め競技：午後1時～ ・関の鯛つりおどり大会：午後7時～

<参考>

【海文化委員名簿】

京都府環境部環境管理課

兵庫県農政環境部環境管理局水大気課

和歌山県環境生活部環境政策局環境管理課

岡山県環境文化部環境管理課

広島県環境県民局環境部環境保全課

香川県環境森林部環境管理課

愛媛県県民環境部環境局環境政策課

兵庫県漁業協同組合連合会組織統括本部指導部

山口県漁業協同組合総務指導部指導課

一般財団法人広島県環境保健協会地域活動支援センター

【有識者】

独立行政法人 水産大学校 理事長 鷺尾 圭司 様

瀬戸内海における水環境を基調とする海文化
瀬戸内の伝統行事

平成 28 年 3 月発行（平成 28 年 4 月改訂）

発行・編集 公益社団法人瀬戸内海環境保全協会
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1 丁目 5 番 2 号
人と防災未来センター東館 5 階
電話 078-241-7720 FAX078-241-7730
<http://www.seto.or.jp/setokyo/>